


建築士

# おおいた

創立50周年記念特集

50<sup>th</sup>  
ANNIVERSARY



 社団法人 **大分県建築士会**



## 創立50周年記念特集

### CONTENTS

- 1 創立50周年を迎えて  
(社)大分県建築士会 会長 岩瀬八洲夫
- 2 祝 辞 大分県知事 平松 守彦
- 3 祝 辞 大分市長 木下敬之助
- 4 祝 辞 賛助会 会長 後藤 誠
- 5 祝 辞 (社)日本建築士会 連合会会長 菊竹 清訓
- 6 創立50周年 記念表彰者名簿
- 8 式典風景

#### 50周年寄稿文

- 10 「歩んで来た建築士の道」  
＜日田支部＞ 青柳 寿人
- 11 「建築と私の人生」  
＜大分支部＞ (株)さとうベネック 相談役 植木 博人
- 12 「私と建築士の足跡」  
＜日田支部＞ (有)宇野建築事務所 取締役会長 宇野 龍頼
- 13 「建築士会と共に歩んだ思い出」  
＜大分支部＞ 森 壽男
- 14 「半世紀の思い出とささやかな未来について」  
＜佐賀関支部＞ 平野 典生
- 15 「50年を振り返って」  
＜大分支部＞ 京極 勝
- 16 「建築士会創立50周年を迎えて」  
＜別府支部＞ 牧 孝
- 17 記念講演 講師 渡辺 篤史
- 18 個人表彰者名簿
- 20 (社)大分県建築士会 50年のあゆみ

# 創立50周年を迎えて



社団法人 大分県建築士会 会長  
岩瀬 八洲夫

このたび、社団法人 大分県建築士会が創立50周年を迎えるにあたり、本日、多数のご来賓の方々並びに関係者各位のご出席をいただき、記念式典を開催することが出来たことは、私たち会員一同にとりまして大きな慶びとするところであります。

昭和26年の敗戦の混乱期を脱しかけ、漸く復興の息吹が出始めたころの時期、創立にご尽力をいただいた当時の先輩諸氏のご苦労はさぞ大変なものであったと推察し、この偉大な功績に敬意を表しますとともに、創立以来、大分県建築士会発展のためにご尽力をいただきました諸先輩方をはじめ、長年にわたり懇切なご指導とご厚情を賜りました大分県当局及び関係諸団体の皆様方に対し、会員一同とともに心より感謝申し上げます。

昭和25年に「建築基準法」とともに「建築士法」が制定され、建築物の災害等に対する安全性の確保及び質の向上・国民の生命及び財産の保護・建築技術の向上並びに自己研鑽を目指すこの法の制定を待ち望んでいた諸先輩方により、昭和26年8月、任意団体として大分県建築士会が創立され、当初は大分県のご厚意により事務局を建築課内に置き、会員数545人で発足して活動を重ねてまいりましたが、以来、今日で満50年を迎えることが出来ました。

顧みますと、昭和33年12月、社団法人大分県建築士会として大分県より認可を受けて、社団法人に改組し、昭和38年には別府市において全国より約2,000人の会員をお迎えして第8回建築士会全国大会が開催されましたが、それまでの大会会場は大都市において開催されていたことを考えますと、画期的なことであり、当時の先輩諸氏のご労苦と京都別府の隆盛が偲ばれます。

昭和59年10月には隣県の熊本県で行われました第27回全国大会を契機に、村松幸彦顧問のご尽力により、建築士会としては全国でも例をみない岩手県建築士会と姉妹建築士会を締結し、その後も交流を重ねてまいり両建築士会の友好関係を発展させて今日に至っております。また、昭和62年1月には青年部会が、平成9年3月には女性部会が設立され、大分県建築士会にも若い会員が多数参加されるようになり、建築士会の活性化に大いに貢献をしていただいたものと思われます。

今では、県下に14支部、会員数も1,885人を数えるにいたり、建築士として建築士法の精神を遵守し、会員各位が資質の向上・技術の研鑽に励み、地域社会に根ざした活動を行ってまいっております。

昨年より、「まちづくり推進協議会」の活動の一環としまして、各支部が取り組んでおられる『まちづくり』の活動に対して本会より助成を行っており、昨年は中津支部、玖珠支部、佐賀関支部においては既に活動を行っております。この事業は各支部の会員がそれぞれの地域に密着した活動を通じてそれぞれの地域に建築士として寄与し、良質な地域環境整備を実現できるように『まちづくり』に建築士が、市民・行政とタイアップし参画して行こうという、21世紀にふさわしい事業といえると思います。

今後の建築士会の運営・活動につきましては、今、連合会において模索されており、近い将来に発足するであろうと思われます『専攻建築士表示・認定制度』に向けた建築士の「継続的自己研修」に関わる事業、また、地域に根ざした『まちづくり』事業を実施し、会員の資質向上の一助になり、また、新規会員の加入促進を図るとともに、創立50周年を契機として発足当時の先輩諸氏の原点を忘れることなく、これからの建築士会の発展の礎となる事業を行ってまいりたいと考えておりますので、会員の皆様には、建築士会の活動にこれまで以上の積極的なご参加とご協力をお願いいたします。

最後になりましたが、今後とも会員及び関係各位の尚一層のご支援ご協力をお願いするとともに、本日ご列席の方々のご健勝とますますのご発展をご祈念申し上げ、創立50周年の挨拶といたします。

# 祝 辞



大分県知事  
平松 守彦

社団法人 大分県建築士会が記念すべき創立50周年を迎えられたことを、心からお喜び申し上げます。

貴会は、創立以来これまで会員相互の連携の下、技術の研鑽に努められ、本県の建築文化の進展に多大の貢献をされました。

また、会員の皆様方には、平素から県政諸施策の推進をはじめとして、建築住宅行政にご理解、ご協力を賜り心からお礼を申し上げます。

ご案内のとおり、景気は輸出の持ち直し、景況感の改善など底入れに向けた動きが見られるものの依然厳しい状況にあります。

このため県では、県民一人ひとりがゆとりと豊かさを実感できる「生活優県おいた」の創造に向け、3つのH（ホープ、ホスピタリティ、ハート）をキーワードに諸般の施策を積極的に推進しています。

特に、景気、雇用対策を重点課題として、健全財政の枠組みの中で交通体系の整備や、光ファイバーによる情報通信の整備を積極的に進めるとともに、県単独で地域活性化道路改良事業を実施するなど、県民生活に密着した公共投資を重点に景気の浮揚を図っています。

建築住宅行政においても、高齢者を含む全ての県民が自由に、社会、経済、文化等の活動に参加できるよう「人にやさしいまちづくり」や「災害に強いまちづくり」等の各種施策に取り組んでいます。

こうした事業は、建築士の皆様方のご協力が不可欠ですので、今後とも更なるご支援をお願いします。

6月には21世紀最初の日韓共催ワールドカップサッカーが、九州では唯一、「ビッグアイ」で開催されます。

大分を世界に情報発信する絶好の機会となるこの一大イベントを成功させるため、かさねて皆様方のご協力をお願いします。

最後に大分県建築士会の今後ますますのご発展と、会員皆様のご健勝、ご活躍を祈念して、お祝いの言葉とします。

# 祝 辞



大分市長  
木下 敬之介

本日ここに、社団法人 大分県建築士会創立50周年を迎え、その記念式典を盛大に挙行されるにあたり、衷心よりお喜び申し上げます。

また、平素より本市の建築行政につきまして格段のご尽力をいただいておりますことに対しまして、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

顧みますと、昭和20年 第二次世界大戦の戦災で、大分の中心部も数多くの貴重な建造物が焼失し、見渡す限りの焼け野原からの復興となったわけですが、この混乱期に当士会を創設され、大分の産業の復興や経済成長の中心的な役割を果たされ、現在の都市基盤の基礎を築かれたことは、ひとえに、当士会の皆様のご努力の賜物と心から敬意を表す次第でございます。

ご承知のとおり、20世紀は、私たちを取り巻くあらゆる局面で数多くの変容をもたらした激動の世紀でありました。このことは、建築界においても例外ではなく新しい社会生活の変貌が、新しい建築理念を生み技術革新や芸術などの進歩を遂げ、効率主義によるスクラップアンドビルドにより、経済成長を遂げてきたように思えます。しかしながら、その目覚ましい変化と発展の裏側には、さまざまな問題も提起されました。地球温暖化がもたらす世界規模の異常気象や有害物質の排出による生態系の破壊など深刻な環境問題。また、化学物質などの影響によるシックハウスの問題など、成長というプラスの反面マイナスの面が21世紀にクローズアップされ、解決しなければならない課題のひとつであると認識しております。

このように、21世紀のまちづくりは多種多様かつ複雑に変化し、この変化に対し当士会は、専門家としての意識改革や知識の向上、さらに日々高度化されていく技術の研鑽は非常に大変なことと思いますが、先駆的な取り組みにより、この諸問題の解決に向け行政にご尽力いただければ幸いに存じます。

最後になりますが、いよいよワールドカップがこの大分市で3試合開催され、世界から多くの皆様が来県されますが、サッカーのみならず大分市の魅力を存分に味わっていただくため「温泉・お神楽・美味しんぼ」アンド「磯崎建築」というキャッチフレーズで、様々な宣伝をしてみました。特に当士会の関係の深い、世界の建築家 磯崎新先生の作品につきましては、数多くの先生の作品がある都市は全国的に少なく世界にアピールできるものと思っておりますので、当士会会員の皆様に置かれましては、知人が来県されましたら是非ご案内いただきますようお願いいたします。

終わりに本日、功労者として、栄えある表彰を受けられます皆様方に心からお祝い申し上げますとともに、当士会の益々のご発展と会員の皆様方のご健勝とご多幸をお祈り申し上げまして、お祝いの言葉といたします。

# 祝 辞



賛助会会長  
後藤 誠

社団法人 大分県建築士会が創立50周年を迎えられ、本日多数の会員皆様方のご出席のもと、記念式典が盛大に挙行されますことにまず謹んでお慶び申し上げます。またこの式典に当り永年のご功績に対しまして、表彰を受けられます方々には、誠におめでとうございます。

半世紀に亘るこの50年を振り返ってみますと、20世紀後半の激動の時代でありました。太平洋戦争後の物質窮乏の時代から、高度成長、人口・産業の都市部への集中、生活環境の変化、バブル経済から、構造改革への転換など、烈しい時代の波に翻弄された時代でありました。この中であって、建築技術は日進月歩、新しい建材の開発、建築設備の高度化、専門家は大きく進展し、計画、構造、施工それぞれに学術面においても、工法の実務においても格段の発展を遂げて今日にいたっております。

建築士であります会員各位におかれましては、その間、研鑽をつみ、技術の向上につとめられ、その時代のニーズに的確に対応された数多くの建築物を生み出し、まちづくり、景観形成に重要な役割を果たされてこられたわけであります。このことに対し深く敬意を表す次第であります。

現在は、誠に厳しい経済状況下にありますが、建築に求められるニーズは益々多様化しております。大震災を教訓とした建築物の安全性の向上、高齢社会に対応したバリアフリー化の推進、地球環境の観点からも求められる、リフォーム、リサイクル対策等、そして地域の歴史や文化に対応した景観形成の推進など、建築に期待される役割はますます大きくなってきているところでございます。

会員の皆様におかれましては、今後とも研鑽を積み、専門家としての知識や技術を基に、建築産業の発展と豊かな生活環境の整備に、その社会的使命を果たしていかれませうと祈念いたします。

私ども賛助会といたしましても、会員の皆様がその力を十分発揮することが出来ますような環境を整え、皆様と共に手をたずさえて努めてまいりたいと考えております。

終わりにになりましたが、会員各位のご健勝と、(社)大分県建築士会の今後ますますのご発展を心からご祈念申し上げます、お祝いの言葉とさせていただきます。

# 祝 辞



社団法人 日本建築士会連合会会長  
菊竹 清訓

本日ここに、社団法人 大分県建築士会が創立50周年を記念し、会の益々の発展と地域社会への一層の貢献を期して、その記念式典が盛大に開催されますことを、心からお慶び申し上げます。

また、平素から、日本建築士会連合会における各種事業活動の推進につきまして格別のご高配を賜り、厚くお礼を申し上げる次第であります。

さて、大分県建築士会におかれましては、昭和26年8月に設立されて以来、建築士の資質・技術の向上に努められると共に、建築文化の進展を図るなど、地域社会発展のために寄与してこられ、建築界の中心的団体へと発展を遂げられました。

こうした隆盛をみるに到りましたのも、創立期の関係者の皆様方のご努力と、そして、それを引き継いで、今日の繁栄へと繋げてこられました会員各位のご尽力によるものと、心から敬意を表する次第であります。

創立50周年を迎えられた今日、人生で言えば、ようやく壮年を迎えるということになりますが、半世紀を振り返って、いよいよ本格的な活動を開始する覚悟を示すという点で、意義深いものがあると思います。

これからの建築士会の進むべき方向は「環境づくりの専門家集団」として、良好な地域環境の実現に重大な責任を持っています。このことを自覚し、社会に対して、その任務を果たすために力を合わせ、モラルの高揚と、リーダーとしての倫理を通じて、高い信頼を受ける産業に変えていくことが望まれています。そうして初めて、日本の文化を担い、伝統を引き継いでいける基幹産業になることが出来ると思います。

大分県建築士会におかれましても、この記念すべき50周年を契機として団結をより一層強固なものとし、公益法人としての社会的責務を果たし、地域社会発展のために貢献して頂きますよう、ご期待申し上げます。

連合会におきましても、新しい建築士のあり方と、それを支える制度を構築して、社会に対して分かりやすく情報を開示出来る仕組みの検討を進めるなど、社会のニーズに応えて参りたいと存じますので、今後とも更なるお力添えを、切にお願い申し上げます。

新しい出発とも言うべき新世紀の展望を、次世代のために拓いていこうではありませんか。

終わりに当たりまして、大分県建築士会のますますのご発展と、会員の皆様方のご繁栄を心から祈念致しまして、お祝いの言葉と致します。

# 建築士会創立50周年記念 表彰者名簿

## 永年会員表彰（会員歴50年以上）

別府	木村 謙二 牧 孝	木本 幸雄	菅野 大助
大分	岩田 治雄 京極 勝 森 寿男	植木 博人 後藤 豊	大倉 忠明 佐藤 修蔵
佐賀	嵯峨 春雄	平野 典生	明 三郎
白杵	嶋津 栄市		
津久見	反葉 宝		
三重	後藤 能久	羽田野 文夫	
日田	青柳 寿人	宇野 龍頼	

## 永年会員表彰（会員歴25年以上）

国東	上野 貢一 松広 勝義	重松 常義 丸尾 直	中本純一郎
別府	安部 重穂 江村 英明 清原 純規 佐藤 昭三 生野 訓久 富重 元 中山 良一 松井 健治 山下 久司	石川 孝弘 河野 伸一 後藤 憲志 佐藤 徳 高橋 静夫 中野 馨 浜田 正造 三浦 克世 山名 義弘	浦松 傳 菊池 五郎 後藤 常夫 首藤 明生 高橋 靖 永松 和夫 堀 景治 山口 清秀
大分	赤松 成 足立 雄一 阿部 知光 飯田 郁夫 伊東 太一 岩瀬八洲夫 江沢 勝之 太田 雄士 岡崎 博己 沖本 進 小野 律雄 甲斐 武久 加藤 繁男 河野 勝広 吉良 勝美 小手川忠良	足立 勝国 東 将 有元 保夫 池邊健太郎 稲葉 孝博 上野 秀 大石 泰生 大柳 八郎 岡本 敏勝 奥本 勝一 小野 敏昭 甲斐 良爾 萱島 宰 川野 保 清田 喜之 許斐 正勝	足立 英治 安部 照男 安藤 賢生 市原 和之 岩崎 佳月 宇都宮純一郎 大沢 壮次 大渡 邦彦 尾中 良章 小野 政信 小野 吉弘 加藤 隆生 川上 正人 木下 敬三 工藤 和雄 後藤 邦義

後藤 信一 後藤 文俊 斉藤 正義 佐藤 靖正 三宮 崇義 首藤 秀文 生野欣一郎 菅 克征 園田 一二 高橋 正夫 武内 忠幸 辻島 竹治 時松謙太郎 利根 久雄 仲摩 政信 南波 忠行 野上 和義 橋本 邦夫 藤塚 勇 法華津 勲 松川 勇 丸井 秀明 御手洗保喜 矢野 長助 山西 誠道 芳賀 聡 岡村 文雄 久田 隆義 別木 正見 安東 憲一 迫部 清美 幸 康生 平林 徹哉 塚本 健進 川野 範元 白井 新治 橋迫 棟夫 赤峰 和吉 高山今朝美 今川 幸一 後藤 正晴 古荘 忠雄	後藤 周三 小田 亮 佐々木亮至 佐藤 博光 滋野 吉朗 首藤 義幸 白水 厚二 惣川 昭 染矢 敏幸 高橋 栄一 田中 健一 辻島 章 徳丸 秀輝 中川 敦 仲摩 衛 二宮 康明 野田 啓司 秦 正行 藤本 吉生 眞方 清彦 松野 建司 三重野安市 道吉 栄一 矢野 隆則 横山 秀樹 渡辺 泰功 幸 秀造 稲生 昭弘 藤野 正己 木村健一郎 山上 啓仁 足立 泰雄 新納 晴重 茅野 吉彦 曾宮 義久 河野 誠 阿南 利見 甲斐崎武士 永井 剛 山浦 一光	後藤 辰吉 斉藤 則行 佐藤 修郎 佐藤 礼治 首藤 雄治 首藤 俊二 新野 政広 園上 鎮雄 高 武彦 田上 徳義 田中 隆男 角上 信 戸高誠一郎 中島 章 仲摩 源一 二宮喜代美 幡 謙 深田 成二 船木 亘 益田 悦治 馬見塚義行 三重野清秀 宮崎 敏信 山崎 文夫 吉武 哲雄 二宮 広文 足立 泰男 八坂 道信 佐護 邦生 渡辺 優人 深津 輝朗 坂田 憲正 高瀬 健二 岩尾 忠幸 長田 吉文 川野 和男 橋爪 征雄
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------



玖 珠	安達 寿徳 衛藤 銑太	穴井 和興 矢野 邦隆	穴見 健児	谷口 正洋 浜田 正造	田原 宏 牧 孝	寺林 貞臣 松井 健治
日 田	秋吉 新六 渡辺 照吉	飯田 茂男 小野 春美	養父 信義 野木誠一郎	脇口 近美	山下 久司	
	後藤 勝己 仁田野正則	坂本 友徳 野上 常行	坂本 肇 深見 則男	大 分	石川 祐介 加藤 隆生	片岡 正喜 松野 建司
中 津	藤原 秀樹 池見 稔	藤原勇喜男 川崎 澄夫	梶原 勝久 木内 定男		山本 哲 衛藤 祐介	平倉 哲雄 村田 俊一
	木下 一男 是末 準	工家伊豆彦 是本 正昭	桑野 剛喜 佐藤謙二郎		宮崎 隆博 高 武彦	石田 孝一 大塚 文美
	瀬口 啓一 松永 勝	瀬口 雅之 松山 忠幸	富部 信一 三雲 金吉		宮崎 敏信 江藤 邦雄	後藤 邦義 来馬 雅史
宇 佐	村上 栄一 幡手 稔	山本 幸夫 芳賀 正二	右田 福蔵 山本 辰雄	佐賀関	幸 秀造 嵯峨 雄二	辻島 章 時松謙太郎
	末宗庄太郎 亀井 諭	木下日出男 松田 文恵	平尾 馨一	佐 伯	吉田 博幸 内田佑二郎	川口 青史 藤野 正己

### 永年本部役員表彰(役員歴10年以上)

高 田	安部 一夫			三 重	小野 安夫	赤峰 和吉	赤嶺 信武
国 東	穴見 弘	野田 忠美	東 徳嘉	竹 田	岡部 達巳	山浦 一光	今川 幸一
別 府	浅野 健治	高橋 靖	右田 恭一	中 津	工藤 伸吾	川合 俊彦	
	山名 義弘	幸 勝美	由川 盛登		甲斐崎武士	木内 定男	清永 茂樹
大 分	村松 幸彦	飯田 郁夫	岩瀬八洲夫		椋田 康男	井上 彰	高榎 利彦
	芳山 憲祐	沖本 進	池邊健太郎		是本 正昭	松永 勝	三雲 金吉
	佐藤 周太	首藤 俊二	井上 正文	宇 佐	中尾 忠廣	身深 文廣	椋田 康一
	高橋 文洋	佐藤 靖正	仲摩 衛		木下日出男		
	辻 隆司	京極 勝					
佐賀関	嵯峨 春雄						
白 杵	佐々木昭正						
佐 伯	志賀 隆保						
竹 田	松井 基泰						
日 田	青柳 寿人						

### 永年支部役員表彰(役員歴10年以上)

高 田	清末 幸生	岩男 博	佐藤 健二
国 東	江本 和良	尾崎 照雄	重末 萬隆
	木戸瑩一郎	河野 和博	糸永 政憲
	清末 哲士		
別 府	安部 忠則	安部 龍三	池田 武重
	浦松 傅	河野 通範	後藤 憲志
	首藤 明生	生野 訓久	関藤 隆志

### 永年支部長表彰(支部長歴4年以上)

白 杵	三重野元良	
津久見	有田 薫雄	野中 智博
三 重	伊東 芳信	
日 田	野木誠一郎	
中 津	松山 忠幸	瀬口 雅之

### 永年事務局職員表彰(職員歴10年以上)

別 府	藤原 和子
中 津	川端ミヨ子
宇 佐	吹上 和子

# (社)大分県建築士会創立50周年 記念式典・講演会

・平成14年5月23日(木)  
・コンパルホール 文化ホール

## 記念式典

～プロローグ～(13:00)

ピアノ演奏

～開 会～(13:15)

開会のことば

建築士会50年の歩み

物故者会員追悼黙禱

会長あいさつ

来賓祝辞

大分県知事

平 松 守 彦 様

大分市長

木 下 敬之助 様

(社)大分県建築士会賛助会会長

後 藤 誠 様

(社)日本建築士会連合会会長

菊 竹 清 訓 様

表 彰

閉会のことば

(休 憩)

ピアノ演奏

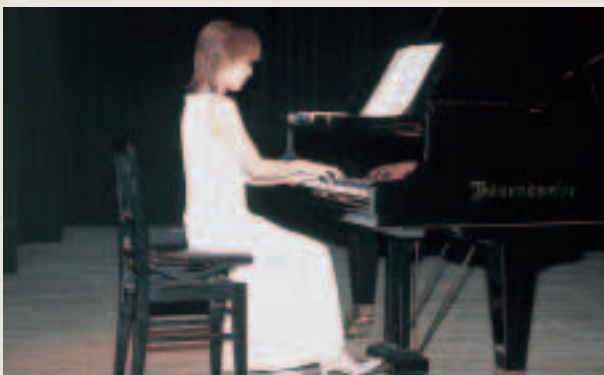
## 記念講演会

(14:45)

演 題 「こんな家を建てたい」

講 師 俳優 渡 辺 篤 史 氏

「建もの探訪」リポーター(テレビ朝日)





式典風景





日田支部  
青柳 寿人

## 「 歩んで来た建築士の道 」

「光陰矢の如し」と申しますが、社団法人 大分県建築士会創立50周年を哀心より御祝申し上げます。

昭和25年に建築基準法と共に建築士法が制定され、翌年に建築士が誕生し建築士会が設立された。草創期に御尽力いただきました先輩の方々にも、その殆どが故人となられましたが、士会設立に個人の御仕事を犠牲にされ乍ら、今日の礎を築かれた事に感謝の誠を捧げたいと存じます。当時の建築士は実務経験年数によって一級又二級の申請書類を規定にもとづき審査にて取得した方、又現在のように試験を受けて取得した方もおられました。私は実務経験年数による書類審査で二級建築士免許をいただき登録と同時に入会した事は記憶にありますが、その後の事は十数年まったく記憶にありません。当時の士会運営は事務局と先輩諸氏の一部の方々の努力で運営されている事が多く、一般の建築士の活動する企画もすくなかったと思います。私は勤めの関係で日田支部に移り、昭和40年代前半より数年の間はただ会員として総会や親睦会等に出席するか、年一、二度士会行事に参加する程度でしたが、昭和40年代後半支部理事に就任しその後本部理事就任、平成6年迄勤め、ただ今は相談役をおおせつかっています。さて、青年部会設立は建設省、連合会の指導で若い人の入会の推進と共に若い人の声が事業にて反映するよう、又幹部役員に若手を起用し、時代の変転に対処すること、新しい発想で会の運営に活力を回復させることが目的で出来たと聞いておりますが、現在では青年部会は建築士会の多様化する業務の助人役として、又部会活動による社会活動、建築士会としての資質の向上には目覚しいものがあり、今や青年部会はなくてはならない存在に発展しています。設立に係わった方々は大変御苦労であったと思います。士会員相互の親睦と友情を深める機会づくりのソフトボール大会、多くの会員が参加できる・健康に良い・みんなで楽しめる。幾つかの問題があるようですが、サマーセミナーと共に継続をお願いしたい。建築士の実態調査、すべての建築士の建築士会への参加の推進を目的に多くの日数と労力をかけ調査をしましたが、満足のいく結果はでませんでした。本部事務局の経費削減のための転居の問題、会費値上の問題と数回審議を重ね結論を出すのに苦労したことも。又会員の所属支部によって会費が、本部会費は同じでも支部会費の違いをどのように調整するか、現在でも結果は出ていないと思います。まちづくり推進協議会も地域に密着した活動をしているようで、なお一層の活動を期待しています。

私が関係した事柄の一部を思いつきのまま記しました。私共建築業界にも施工管理、特に品質管理の行き届いた業者に責任施工をもって発注する傾向が見られます。特に半永久的な建物では、価格もさりながら工事中の品質管理、環境対策、引渡後の保証等にも対応出来る業者が施主から選択される時代である。施主の要望が益々多様化し、品質の保証は勿論、建築に伴い発生する社会的責任にも充分に対応出来る力が無ければ生き残る事は不可能と思います。この輝かしい50周年を節目として、さらなる飛躍発展を図ろうではありませんか。最後に本会創立以来会員として、永年本会役員としての表彰状をいただき、大変感謝しております。厚く御礼を申し上げます。



# 「建築と私の人生」

大分支部  
株式会社さとうベネック  
相談役 植木 博人

大分県建築士会50周年誠にありがとうございます。益々のご隆盛を御祈念申し上げます。記念寄稿と言うことで恐縮ではございますが、若い建築士の皆さんの少しでもお役に立てばと思ひ筆を執らせて頂きました。

## 『学生時代編』

私は昭和2年8月1日生まれです。我々の子供の頃の思い出は全て戦争一色、「お国の為」が最優先される時代であったと言うことです。当時の私の親族関係を紹介致しますと、父は銀行員、従兄に佐藤肇氏（佐藤組創設者）がおり工事請負業を営んでおりました。時代が激しく変動する中で私は小学校時代から進路の岐路に立ちました。父の「技術者の道を選べ」との強い薦めもありまして私はその道を選択いたしました。勉強するのも困難な時代でしたが、幸運にも大分工業建築科から鹿児島工専建築科と進むことができました。昭和16年大分工業入学時は全国に戦時非常体制が敷かれたほど戦禍が拡大していました。当時の学校では軍事訓練、勤労奉仕、更には長期の学徒動員が強いられ本分である授業の時間は極度に短縮され、私は開校以来最も授業の少なかったクラスの一員でした。卒業後は憧れと言えた工専に佐藤諄之助氏（佐藤組二代目社長、現さとうベネック会長）と共に合格し喜びを分かち合ったのもつかの間、時代背景もあり程なく入学延期の通知を受ける次第となりました。そして8月15日遂に力尽きた日本は敗戦を迎えることとなりました。まもなく鹿児島工専から待望の授業再会の通知がやってきました。しかし当時の鹿児島には軍部の拠点があり空爆も特に激しく市内一面焼け野原で下宿探しにも苦労したものでしたが、それから3年間貧しい衣食住ながらも勉学に思い残すところなく打ち込みました。工業高校、工専の学生時代は多くのかげがえの無い学友に恵まれ苦しくも楽しい青春時代でありました。

## 『社会人・現場編』

昭和23年4月、夢と希望に燃え株式会社佐藤組（佐藤肇社長・当時）に生涯を託す気持ちで入社以来55年の歳月が過ぎました。初仕事は入社後3ヶ月にやってきました。石炭の生産地である福岡県山田町の『古河炭坑職員住宅新築工事（木造平家建）』の現場でした。請負金は110万、所長が私で作業員3名を大分から乗り込ませて着工から1年の工期で無事竣工できました。しかし戦後のインフレで物価が日々上昇し予算との単価調整が非常に難航しました。しかし幸いにも当時の施設課長・担当主任からご理解を戴きまして「物価上昇スライド」を承認していただき工事金の変更契約を締結することが出来、予算面で非常に助かりほっとしたことを昨日のように覚えております。山田町への赴任は2年間でしたが工事の現設・積算・施工・更に人間関係の重要性が身についた時でもありました。

その後大分へ戻り大手町の「大分市営アパート」の現場を所長で拝命しました。工事概要はRC造、半地下・地上4階建ての24戸の建物でした。大分県では初の鉄筋コンクリート造とあって当時は大変な注目を浴びており内外からの見学者も多くなりました。

これを機会に我が社もRC造工事のご指命を次々と戴くこととなりました。実はこの工事が後に私自身に大きな影響を及ぼしたのです。

私は昭和28年に一級建築士に合格いたしました。何と設計と課題に「RC造集合住宅24戸建て」が出题されたのです。まさに天佑と市営住宅の実績そのままを解答し、ここに県下昭和初めての一級建築士が誕生したのです。合格を大分県土木部長から誉めていただいたことを覚えております。

有り難い事に私は次々と会社にとって重要な物件の施工を任命され20年間でコンクリートタワーを18基築造しました。またその間には土木の造成工事、護岸工事、水路橋等への任命もあり不慣れながらも勉強と思ひ、進んで取り組みやり遂げることが出来ました。勤務地も福岡 熊本 宮崎と転任し大分に戻ってからは大分商業全館、大空団地アパート、市営陸上競技場と建築してまいりました。その時の苦労も今では良い思い出としてよみがえってきます。

## 『社会人・管理職編』

現場の最後の職は昭和41年の熊本県で5現場の統括所長を務めたことでした。その年の4月に突然大分本社へ帰社の命を受けました。本社にて精算課を起し、建築コストの立て直しをせよとのことでした。その後2年間は土日返上でメンバー8名を指導・育成し今日の弊社の精算部の礎とすることができました。昭和43年に当時41才で常務取締役建築部長を拝命し本格的に管理職に就きました。47年に就任した佐藤諄之助二代目社長は、企業の拡大拡充の方針の下「事業部制」を敷き、私は建築事業本部長で取締役専務を拝命いたしました。当時はその大役に大変な決意と実行が必要で有ると身の震える思いで一杯でした。

私が早速取り組んだことは「企業としての闘うための武器造り」でした。

### 其の一【人造り】

新規採用計画とその定着

一級建築士150名の達成

### 其の二【積算課の充実】

躯体積算電算システムの開発

### 其の三【設計課の充実】

企画・構造・意匠・設備設計の組織化

### 其の四【技術開発部の新設】

工学博士、総合技術士の輩出（実績は博士2名、技術士1名）などなど数多くのハードルを設けましたが、平成の初めまでには全ての目標は達成できたと思います。闘う武器を得て体制の整った我が社は時代の情勢も有りまして一気に上昇気流に乗り、現在の形となりました。

まさに激動の時代を経験してまいりました私も平成13年には相談役になり、建築事業本部長も三代目となり今では後輩の成長を楽しく見守っている状況です。

## 『おわりに』

現在の技術革新のスピードは、私の過ごした50年間に比べて更に増しているように思えます。ITの進歩を加え今後はもっと大きな変化が待っていることでしょう。

しかし私は建設業の基本は現場であり、その原点は人、人を動かす事にあると思います。私は常々、四管理である「安全・工程・品質・予算」管理無くして経営なしと唱え続けてきました。この四管理の完全達成こそが管理職の主務で有り、マネージメントで有ると実感しております。

最後になりますが人生で最も大切なことは人との出会いであり、共生の精神を忘れてはならないと言う事を述べさせていただきます。筆を置かせていただきます。



# 「私と建築士の足跡」

日田支部  
(有)宇野建築事務所

取締役会長 宇野 龍頼

## 【創立期】

昭和26値、宇野建築事務所開設。

建築基準法、建築士法、昭和25年公布、同26年施行の年に開所し、昭和25年は準備期間でした。日田地方は、戦前の市街地建築法は無し、建築物に対しては何等の規則制限はありませんでした。戦後の臨時物資調整法に基く臨時建築物等制限規則があり、届け出をして、建築する状況で建築設計をして施行するなど、一般の方々の考えは全くありませんでした。建築基準法が施行され、確認申請を提出しなくてはならないようになり、やっと設計の仕事が出来るようになりました。然し、本設計の仕事はありません。大工さんが施主と話し合い、決定した間取りを、基準法に照らし間違いのない様に直し、説明をして、確認申請書を作成する程度で、殆ど本設計はありませんでした。

或る時、お客様が、来所して言った事は、建築設計事務所は、どんな仕事をする所ですか？と、聞かれました。私共は、皆様が住み良い快適な、建物を計画する、即ち、住み良い間取り・採光・通風等環境の良い建物を、そして基準法に従い、違反しない様に、設計する仕事です。と答えますと、そんな仕事は大工さんが、する仕事ではないかと、建築の設計に対する認識が全く無い、時代であり代用設計が、暫くの間続きました。

## 【萌芽期】

我々設計士の設計した建物と、大工さんが直接設計施工した建物との違いを、現実に表現しなければ納得しませんでした。私は第1に店舗設計に重点を置きました。これは成功で段々と設計の重要さを認められ、随分多くの、設計依頼が来るようになりました。同時に住宅の設計も、住宅金融公庫法の発令に併い、本設計の依頼が段々と増えました。一生懸命に家族の一員になったつもりで、施主家族に溶けこんで、その一家の構成、周囲の人との繋がりなど家族の方々と夜遅くまで打合せをし、又、充分納得して貰える建物になるよう、努力しました。店舗、住宅等を請負い施工し立派に完成させた事も、多数あります。世間に設計士の存在を認めよう努力をした苦節の時代でした。

## 【成長期】

世間に設計士の能力と存在を色々な点で認めて頂ける様になりました。昭和31年にフランスの陶芸家バーナード・ドリーチ氏が日田へ来日し、小鹿田を訪問し、小鹿田焼に自分の芸を付加した作品を展示する展示場を(大きいウインド)を建設しようと、当時県工芸指導所々長でありました、寺川由己様から御依頼があり、設計をし、好評を受けました。又翌年の昭和32年、日田商工会議所は当時戦前の設計で、お役所式の階段で上り、玄関に入る建物でありましたが、これを一般の方々の、使用し易くすべく、玄関と道路面との段差を無くし、1階の約半分の面積を出入りし易い日田物産の展示場と変更しました。見事に完成し、人目を引く建物となりました。私もその会場をお借りして、私の設計作品の写真及設計図、透視図等の展示会を開き、設計のPRをした実績もご座居ます。建築設計の個人展は後にも先にもこれが1度だけだと思います。昭和33年、私31才、当時日田に木造建築物で1番大きな古い劇場建築がご座居ました。この建物を、映画及び演劇が出来る、建築物に建て替えるよう劇場主、当時は、大分県議会議

長でおられた、穴井助三氏より依頼を受けました。勿論これには、何人もの方々が、私を推して下さり、大変お世話になりました。鉄筋コンクリート及LGの耐火構造の建物で、床面積が、1052.70㎡、ワンスロープ型の3階建てで、観客席、約800席位の建物で、日田では、初めての近代的な建物でした。落成及開館式の式場で、設計者の挨拶がございました。大勢の中で挨拶をし、設計士の存在をアピールする事ができ、大変充実した気持ちでした。当劇中には、以後「美空ひばり、島倉千代子」外、多数の歌手や俳優が来場し、大変な賑わいをした建物ですが、残念乍ら今は、映画館の衰微により休館し別用で使用している状況で、大変さみしい限りです。

## 【設計信頼度高揚期】

日田映画劇場の設計管理工事完成に依り、設計士に対する信頼度は、急激に高まり当時日田の産業は木材、製材業及び木工業「足物製造」の工場が戦後住宅産業の急増に伴い、室内家具の生産が日に日に増大し、急激な需要に迫られている時代でした。今迄は木造建築の中で働いていましたが、生産工程の近代化に伴い、広い梁間の建築が必要となり鉄骨造が要求される様になりました。最初は型鋼材が、出廻る前軽量型鋼ライトゲージを使用しておりましたが、厚型鋼材が生産され、この材料を使用するようになり日田の木工生産工場は競って設備投資を次ぎ次ぎと行いました結果、日田は九州でも一躍足物家具の主産地としての地位を築き上げました。私の事務所は、その殆どの工場の設計を担当させて頂き大変、光栄に思っております。昭和39年私は36才、日田商工会議所の設計を依頼されました。これは前に設計しました、工芸試験場バーナード・リーチ氏作品展示場並びに旧商工会議所、内部模様替物産展示場等の設計が認められ、多くのかたの推薦を受けての事で、皆さんに感謝をしている所でございます。鉄筋コンクリート造4階建、延面積1564.80㎡で、築後39年になりますが、当会議所の維持管理が、大変行き届いており、今だに新築のような様装を保っています。以来鉄筋コンクリート造建築の到来期となり商店ビル、病院、医院、学校建築、銀行、公的建物等、沢山の建物の設計を、多くの方々の熱い愛情と信頼と後押しのお陰でたくさん建物の設計をさせて頂きました。

## 【忘れ得ぬ方々】

昭和26年に設計事務所として独立し苦勞をし乍らも、数多くの建物の設計をさせて頂きました裏には、多くの方々の御力添が、御座居ました。その内より、今も心に残る方を記させて頂き、多くの方の御支援、御協力の御礼に替えさせて頂きます。

先ずお1人目は、寺川由己様、私が日田林校高校2年在学中、学徒動員令を受け軍事工場へ、動員されました。日田漆器株式会社ですが当時は、大刀洗飛行機製作所の日田工場での専務さんでした。学徒は、大刀洗と日田工場の二分に別れていましたが、昭和20年3月29日の、大刀洗大空襲に合い、電話連絡の取れない状況でした。私は生徒隊長をしており、両工場を受持っておりましたが、当日は日田に居りました。早速私は、部下一人を連れ自転車でまたがり、無舗装の朝倉街道を甘木の寮まで行き、全員無事の確認をして夜遅く、日田に帰り着きました。工場には専務及び池永工場長、学徒引率教官、森夜潮先生、数名の方が首を長くして、待っておりました。私の報告が終わると同時に涙を流し、万歳をしつつ、言うに言われぬ喜びをして下さいました。この学徒動員時の出会いが後々私をどれほど勇気づけ、指導して頂いたことか。寺川由己様は、先に書きました戦後、県工芸試験場の場長になられておりましたが、陶芸家バーナード・リーチ氏を日田小鹿田に招き、小鹿田焼を今に向上させた功勞者です。バーナード・リーチ氏作品の展示場の設計を私に指名、指導して頂き又、旧商工会議所の模様替、日田物産展示場の設計も、山下会頭に推薦して頂きました。この出会いが、後の会議所の建築設計に繋がって参りました。若い20代30才代の私を常に見守り、応援して頂きました方です。又動員中の工場長の池永満義様は、終戦後は



# 「建築士会と 共に歩んだ 思い出」

大分支部 森 壽男

日田市総務課長に就かれておりましたが、退職後は日田青果株式会社の専務をされ、青果市場の建物を何回となく指名して頂きました。又、指導教官であります森夜潮先生は美術の先生で、「漆工芸」の名人であり、日田林工高校を退職後も色々和相談に乗って頂き、指導を受けておりました。特に商工会議所の会頭室に小鹿田焼を貼り付けた壁面は、先生の指導によるものです。今は御三方共、お亡くなりになられ、昔日の在りし日のお姿が、次々と思い出されます。高瀬潔様は日田地方、初代建築主事で建築基準法施行に伴い、建築申請書、現場等総てに目を通し、或る時は厳しく、或る時は優しく、日田地方に於ける建築設計の必要性そして「法の目的である国民の生命、健康、財産の保護」を図り乍ら段々と、建築物の向上と、設計の重要性と建築士の自覚等の指導をして頂いた方です。残念乍ら今年の4月に亡くなられました。外山芳彦様は、日田地方の建築主事として赴任され、私が日田映画劇場、鉄筋コンクリート造3階建を設計した当時の主事さんで、日田の民間工事としては一番大きく又構造的には、鉄骨と鉄筋コンクリートとの併用で大変心配をお掛けし、又御指導を頂きました。本庁にお帰り後も、県庁にてお世話になり又、建築士会の事務局長もされましたので長い間のお付合で、何時までも思い出に残るお方です。その他多くの方の御指導、御協力を頂き、お礼を申し上げるべきですが、紙面の都合上、この方々のみでお許しを頂きます。

## 【建築士会の思い出】

昭和28年、建築士会発足と同時に会員になりました私は、当時25才で、当時の建築士資格者としては1番若い者でした。若い故に今回の50周年記念に表彰されました。先輩の方々の多くは亡くなられるか、会を退かれるかで、青柳寿人様と私2人が日田地方から表彰を受け、大変有難く、光栄に感じている所で御座居ます。日田の夏の祭り行事であります、川開き観光祭に建築士会より踊り、2回程出場しましたのは20才代30才代の頃で、大変おもしろい思い出になりました。又ソフトボール支部対抗戦がありましたが、日田が会場の際は、実行委員会のメンバーとして活躍した思い出が御座居ます。又秋田での建築士会全国大会にも参加し、他支部の方々と深夜迄、飲み、語った思い出があります。その他いろいろの行事に参加致しました。

## 【建築士の社会的地位向上の努力】

昭和28年、日田地方が未曾有の大洪水に合いました。これを期に日田地方の代表的な職業の若き青年実業家が組織する青年会議所（日本JC）が発足しました。私も自分の職業的技能が認められ、31才の時に入会を、進められ入会しました。これを期に異業種とのトップ、青年実業者との交流が始まりました。

経営及び知識の向上、親睦及び友情の交流等、大きな勉強をする事が出来ました。建設関連の会員は、私が初めてで暫くは1人でした。以後、段々と建設関連の方も入会するようになり、ようやく職種として活躍する事のできる様になりました。又、日田市の特別職として、32才の時、日田市固定資産税評価審議委員に推薦され、以後、都市計画審議委員、環境保全審議委員等、職業を代表しての特別職を勤めさせて頂きました。又50才の時、日田体育協会、桂林地区の体育協会会長を引き受け、以後、日田市体育協会副会長を18年間勤め、本年迄市民体育の振興に働かせて頂きました。又自町4百戸程の自治会長も仰せつかり、地方自治の為、一生懸命、勤めさせて頂きました。又奉仕活動として、世界ロータリークラブに入会し、現在、なお活動を続けている現在で、職業を通じて奉仕を行いつつ、社会の為に少しでも御役に立とうと思ひ、少しづつですが働いている昨今でございます。

以上、私の現在でございます。大変、まとまりの無い迷文にて、御理解頂けないかと思ひますが、私なりの50年の歩みを振り返ってみました。

どうも有難うございました。

大分県建築士会が創立50周年を迎えられましたことを心からお慶び申し上げます。この記念式典で不肖私も受賞の栄に浴しましたことは身に余る所で感謝に堪えません。

我が国は、戦災の復興事業と駐留軍工事が重なって戦後数年間は活況を呈しましたが、技術的には見るものはありませんでした。昭和25年建築基準法並びに建築士法が制定され、新しい技術基準による本格的な建築物が造られるようになり、また建築技術者の資格を定め、業務の適正と建築物の質の向上が図られるようになりました。

当時20歳半ばの若い技術者として建設会社に勤務して工事現場の施工監理や設計の仕事に就いていた私は、これから建築家として立って行くには建築士の資格が必要であるから早速受験準備に入り、昭和27年、1級建築士の資格を取得することができました。

昭和26年8月発足した建築士会が「大分建築士」の月刊誌を11月に発刊しました。会員の投稿により、法規や構造計算の計算例等の参考資料、建築士試験問題と解答例が掲載され、昭和31年には1・2級建築士を目指す受験生のために建築士受験準備講習会を建築士会が実施することになりました。講習は5科目に分かれて行われ、私も講師に委嘱され建築施工の科目を担当しました。この講習はその後昭和59年まで29年間続けられました。受験生の合格を祈って真剣に取り組み、多くの建築士の誕生を見た喜びと、この間建築技術の進歩発展に伴う新しい施工法等自分にとっても大変勉強になったことは生涯忘れることはできません。

建築士は日進月歩と進む建築技術に対応するためにも研修を重ね常に新しい知識を吸収し働く喜びを味わうことが大切です。地震や災害が多く、更に大規模地震の発生が予想されている我が国では堅牢で耐久性があり、健康で住み心地がよく、安心して住める建物の建設を目標に、設計施工監理のあり方を改善して行くのが21世紀の建築士の使命だと思ひます。



佐賀関支部  
平野 典生

## 「半世紀の思い出と ささやかな未来について」

この度、(社)大分県建築士会 創立50周年記念式典及び記念誌発行、喪心より  
お祝い申し上げます。

会員の皆様方の、今後のご健勝とご活躍、ご発展を心よりご期待申し上げます。

さて、私儀、終戦後の昭和21年4月より、現場監督という都合の良い名称の作業員で、鶴嘴を振り、スコップで全ての床掘、切取り、トラック又は、トロッコへの積込一切を行い、木材類は肩で担いで小運搬するのが日常でした。加えてインフレ、食糧難と、随分と苦勞の連続でありました。

現在は、全て、機械と電子機器の時代であり、横文字表示の建築設計業務にたずさわる作業は、半世紀以上経過した我々には到底ついては行けません。

当時、有名な米軍人が、その地位を去るとき、『老兵は死なず、唯、消え去るのみ』と言った気持ちが、現在は痛いほど解る気がして、一抹の淋しさを嚙締める昨今であります。

最近、全国的にも公共工事の節減、箱物工事の減少のなかに有り、住宅も工場生産のプレハブ化著しく、一昔の注文住宅も影を潜めています。建築士は、「物づくりの集団」という顔でなく、「消費者、ユーザーに我々は、何を提供できるのか」という顔作りへと変えて行く時期に来ています。また、建築士会、建築士事務所協会に入会して「何のメリットがあるのか」と意味(利益)のない会には、入会しない人もいますが、メリットは、「人から与えられるものではなく、集会の中で多数の意見の中より拾い上げ自分から作るもの」であります。

これまでの半世紀を振り返ると、経済的にも生活面でも確かに豊になり余暇の過ごし方も、随分『ゆとり』を感じます。

しかし、我が佐賀関町は、県下でも指折りの過疎の町になり、現在でも進行中であります。

旧町中心部より一步、脇道に入れば、幅員1m~2mの里道に面し、両側に住宅が建ち並び、建築基準法の精神は『何処にありや』の感じであります。メインの幹線国道は、巾員もある程度は、広くなりました。これに九四架橋が実現し、又大分市に合併すれば、かなり改善されると期待を持っています。

しかし、これが10年先の話であっても、佐賀関支部の会員は、地元の建築士として、町医者的な存在になる必要を感じます。

現在は、新築物件も少なく、増改築や補修の中に、仕事場を見出し、町並みの景観や環境問題、建築基準法の精神を考えて行かなければなりません。

しかし、佐賀関町は、総合計画で、文化施設(多目的ホール) 国民健康保健病院、安定型廃棄物処分場並びに汚泥再処理センター整備、その他、かなりの建設計画もあります。

しかし、技術的な面でレベルが低ければ、都市の大手建築家に見下されます。地元建築士は、自己研鑽を重ね、レベルアップを目指し、地元経済界、文化団体等と、交流を重ね、視野を広げることも大切であると感じます。

小さな町で、縁あって、同じ建築士の道を歩く会員の方々、同じ地域で、同業の職場で、同じ職能を持つ同士として、お互い交流を密にして、助け合い、技術の向上に、努力しようではありませんか。





# 「50年を振り返って」

大分支部  
京極 勝

創立50周年、御同慶に存じます。また、表彰頂き、有難うございました。以下の“ある調”、かつ、冒頭での横道、御免下さい。近頃、よく耳目にした“官房副長官”。実は、同じ、あの“O内閣”と急遽後を継いだ“M内閣”での、参院側からのそれが、私が建設省に入った時、共に住宅局関係配属の、もう一人の建築職のMさん（九州N県出身・一級建築士）であった。続く現K内閣でも、同ポストに、同じく住宅局で10年程後輩、かつ、同じ建築職のUさん（関東G県出身・建築士資格不明）が就いている。旧建設省関係では、永らく、土木職が、3年毎の参院選で全国区を二つに分け、土木建築分野から、悠々当選、常時、4人の参議を抱えていたが、建築職が、このルートに乗ることはなかった。二人は、地方区からの政界入り。同格ポストに政務次官、今では副大臣があるが、技術系の両者が、続いて、気配り必要なこのポストとは、注目に値しよう。政治的価値観如何はさて置き、私の一存で紹介いたす次第。

## 【その1】

一応、事前に私の職場経歴を記すと、建設省（住宅金融公庫を含む。）大分県、建設省、四国T県、そして大分県であった。建設省では、建築士行政事務も担当。2回目の建設省では、それに“叙勲・褒章・表彰”関係事務が加わっている。

### “叙勲・褒章・表彰”関係事務

今、“叙勲・褒章”制度の見直し中。叙勲の第1回は、昭和39年の秋で、私が担当したのは第2～3回、即ち昭和40年の春と秋であった。第1回は、建築関係も数多く、勲1等の方が一人おられたが、第2回以降は、主として、次の6箇月内に70歳となった人が対象で、当該2回とも勲3等以下となった。手続きとしては、“知事”と“連合会等”からの推薦に基づき、市町村長へ資格照会、問題なければ御本人に受領意思の有無確認を行った。前記勲1等の方は、終戦時、大学総長であり、建設省関係では委員等をされていたが、当然、文部省からも、同じく内閣賞勲局に推薦があった筈。当時、担当課長補佐として、実質独りで事に当たったが、何処からも力が作用せず、気持ちよく処理できた。今の世の中、“勲等 一皮剥けば堀の中”、などとならぬことを願っている。

### 隣接分野の資格・業務との関係

形式的に、土法では、建築士〔試験・免許〕が主で事務所〔登録〕が従、建設業法では、建設業〔許可〕が主で技士〔検定・登録〕が従、宅建業法では、取引業〔免許〕が主で取引主任者（試験・登録）が従、と言える。土法では、当初、知事への届出だけで事務所を開設でき、それだけ建築士の地位が高かったが、程なく、現行（知事）登録制に移行している。建設業法では、営業所等や工事現場での技士の専任制により、それだけ技士の職場が確保されている。建設業の許可基準で、一・二級建築士は、一・二級建築施工管理技士と、建築工事業については同格であるが、専門工事業では、大工---、屋根---、タイル---、内装---のみ同格で、左官---、とび---、石---、板金---、ガラス---、建具---については、そうでなく、鋼構造---については一級のみ同格、かつ、木造建築士は大工---についてののみ有資格である。兎も角、建築業を中心に、一・二級は、大局的には同格だ。そこで、士会活動に、施工管理の分野を設け、事務所に比して懐の大きい建設業での施工技術の研鑽で、建築施工管理技士グループと共催などしたら。定款3条は、問題なからう。事務所協会は管理建築士の研鑽その他経営面、こちらは施工管理を加えての各建築士の資質向上、となれば両団体の性格の違いが一層明確になる。

更に、宅建業法でも、営業所等毎に置かねばならない専任の取引主任者の数が規定されている。これに比べ、建築士事務所は、抱える仕事量に拘わらず、（管理）建築士が1人おればよい、という鷹揚な状態が今日に至っている。

その他隣接資格関係では、本誌か、連合会誌の“ずばり直言”欄かに、いろいろ書いた。例えば、『不動産鑑定士と建築物に関する調査又は鑑定業

務（土法21条及び23条1項関係）』、『（東京都）行政書士（会）と建築に関する法令又は条例に基づく手続きの代理業務（関連条項、前記に同じ。』等があったと思ひ出す。

### その他

職能論的立場での危機感から、かつて“設計施工一貫”を否定する動きがあった。建築界が纏まらない大きな原因であったと思うが、建設業法や宅建業法、それに建築基準法など絶えず改正されているのに、建築界の統一意思による土法改正は実現しなかった。以前から、常識的に、公共工事は分離発注。民間工事についての“分離”“一貫”の如何は、建築し、使用する消費者の選択による、謂わば自由競争の分野だと思っていたが、近年、世界の潮流は、公共も含め、緩和の方向に動いているようだ。土法改正とは。例えば、前記何れかの会誌で述べたが、消費者のことを考え、医者のように、与えられた独占業務の中での専門分野を政令等で区分し、後は自由に表示することであった。設計監理総括者には、構造専門であれ、設備専門であれ、何であれ、発注者等も望む、適任の建築士（事務所）が当たればよい、として。規制緩和で、資格の意義が薄れようとする昨今、専門化の動きがあるようだが。昔は学科4科目に設計製図を加えた5科目で、一度の試験だった。後者は、その性質上、試験時間が長かったものの、合否決定でのウエイトは、大略、'1/5'。ところが受験者数の増大で採点に手間取るようになったため等で、学科試験で篩にかけた後となったためにウエイトが'1/2'に上昇した。各科目それぞれに、“要最低点”という拒否権はあるが。衆議院議員8人による法案提出で、土法は成立・制定されたが、鼻息荒き中心人物であった最若手の田中角栄さんは、一級建築士の登録番号がNo.1だ、という噂があり、調べた。が、5,000番前後位であったが、別に区切りもよくないものであった。功績者でも、無理せず良かった、と思う。制度発足時、多くの人が、選考で資格を取得しているところ。

## 【その2】

紙幅、残り少々。“2回目の大分県”でのことを。

着任時、早速、県事務所協会存否の探りで、あちこち電話。專業側のみの偏った動きであったため、休眠状態と判明。揺り起こし、開始。士会事務所の県建築課内よりの独立。事務所・事務局は事務所協会と共同。支部組織順の先頭を、“大分支部”より“高田支部”へ。県組織順を利用。行政権力への追従にはあらず。会報・月刊「建築士大分」発行の提言と推進。在京時には、連合会誌「建築士」の編集にも関与。二級学科試験と宅建試験採点でのコンピューター利用化等。両試験での採点は、県庁外で部屋を借り、課幹部職員が行っていた。公正な採点を、と考えた私は、密かに電算室と連絡をとり、同室の活用だと、上手く切り替え、同室も喜んだ。これは県庁内の全試験でも、九州地区の両試験でも、始めてであった。昭和28年夏、人事院による国家公務員試験受験時、既に5肢択一・マークシート方式であったが、建築士試験等は、コンピューターの普及を待つことになったのである。二級設計製図では、番号・氏名部分を切り取り、別番号を付して公正採点（当時の担当職員、存知。）その初回、やって来た試験委員の、戸惑った姿を眺める。その後、合否決定の場で、或る試験委員、自己の会社関係者の合否をメモするや、所用があると、帰って行ったが、実害は、その程度のこととなった。このやり方を、九州各県に勧めるも、ついて来ず。新方式に切り替えた後も、宅建と、特に製図に、よく、上からの力あり。受け付けず。宅建だが、合格発表期日時近づき、遠方の市まで行って直接断るなど、手を焼いた。兩試験とも、身内だった。私の責任で、偉い相手を断念させないと、上が決裁しないのであった。私の同一ポスト在任が長く、上も次々と異動した。或る時、意外にも、「済みませんでした。」と。それは離任の挨拶で回って来た某部長からの言。去るに当たり、私に対する、それまでの気持ちを清算した瞬間、と受け止めたが。一片の良心を垣間見た、の感。時を経、内容は異なるが、あの、B市で6,000万円事件があった。ここで、思い出した。ただし、県外。或る日の午後。「何、課長もいない？」と言われた、との連絡で、局長室に行く。と、衆院当選1～2回位の御仁、秘書一人を随伴し、「これが一級を行けたが（不合格にはならないだろうな？）」と。上司に報告、と應對。あのコチコチの課長補佐は手に負えない、で乗り切って貰えば、と思っていたが、あっさり合格。その御本人、立ち回り上手く、遂には与党の幹事長に。T大臣の時には、県境向こう側の業者を指名せよ、と無理を言って来ていた。その後、逝去。県土木建築部への名称変更。勿論、条例改正。私は、震源で、波動の伝播状況を眺めていた。元占領下の沖縄県とも、逆方向の広島県・山口県とも、違う動きであった。同じ頃、九大・富井教授と連携し、分大・建設工学科の設置促進。

以上。若干、真実のヴェールを剥いでみました。



# 「建築士会創立 50周年を迎えて」

別府支部  
牧 孝

建築士会創立50周年を迎え、正会員50年以上在籍と役員歴10年以上の表彰を受け、50年をかえりみて、思いつくままに綴らせて頂きます。

## 1章 建築家を志したこと

私が中等学校の受験希望校をきめる時「手に職を持たば社会に出て、人に踏付けられる事はないぞ」と、小学校6年生の私に言った父の一言でした。父は屋号三吉屋で京染の仕事をしていた職人でした。当時は工業立国と呼ばれていました。県立大分工業 建築科を昭和17年12月に繰上げ卒業し、旧満州国國務院建築局に奉職しました。誰もが思う初めての給料で、何か記念品をと本屋に行きました。白い表装で「建築美の再発見」と金文字でかかれた、著者ブルーノ・タウトの本を買いました。本の内容は京都の桂離宮を賛美したのですが、中程に建築家の五大精神と題してかかれていました言葉が心に今でものこっています。

- 一 感激家たれ（感激がなければ芸術は生れない）
- 二 情熱家たれ（情熱がなければ作品は完成なし）
- 三 真面目家たれ（作品にその心が反映する）
- 四 率直家たれ（作品の評価は率直に受け止める）
- 五 謙遜家たれ（作品が好評でも芸術は無限です）

以上（ ）内は18才当時の私の心構としての解釈でした。

## 2章 両親に感謝した事（建築家を志す）

昭和20年4月。満州国関東軍に入隊し、同年8月イルクーツク市（当時30万都市）に強制抑留され、500人と抑留生活にはいりました。作業は色々ありましたがそれほどきつい作業はなく、共産主義社会を見聞しました。作業にもなれ、やがて半年がすぎる頃、誰言うもなく劇団を作ろうと、青空劇団を作り、劇団の歌も作りしました。

青空劇団の歌 曲は北海道大学の寮歌の曲との事

1. プンチャチャッチャ プンチャチャッチャ  
 プンチャチャッチャ プンチャチャッチャ  
 空は青空 青空劇団  
 若い僕等の集まりだ  
 歌でほくして笑いでまいて  
 劇で泣かせる 心意気 心意気  
 エイエイオー
2. プンチャチャッチャ プンチャチャッチャ  
 プンチャチャッチャ プンチャチャッチャ  
 あれをごらんよ、あの青空を  
 遠い故郷の 山や川  
 忍ぶ思いは とどかぬけれど  
 劇でとどかす 心意気 心意気  
 エイエイオー

以上

500人の、それも年齢、学歴、職業、趣味等の違う人々が歌、講談、落語、万才等にて楽しい一時をすごしていましたが、故郷の状況がわからず、一般事務職の人々は、復員しても、家は、会社は、就職先はあるのかと、心配していました。私は幸い建築家を志していたので、復員して故郷の復興に役立つものと、一般職の人より心配事が少なかったことを、両親に感謝していました。昭和22年5月に病気で1人死亡しましたが、499人無事復員し、それぞれの故郷に帰りました。抑留生活中、建築家を志していたため、安心して復員の時を待つ事が出来たことにかさねて感謝しました。

## 3章 建築工事の実務について

別府市に復員して、市が被害のなかった事で安心しましたが、大分市が焼野原になっていたのには驚きました。大分市の建設会社に入社し、復興にたずさわり、昭和25年建築基準法が施行され、昭和26年4月に別府市土木課建築係に奉職しました。昭和26年頃の校舎は木造瓦葺2階建外壁モルタル塗りシン吹付仕上でした。ある校舎の監督にたずさわった時、外壁モルタル塗り下地のメタルラスを調査したところ400刃のメタルラスを使用するところ、280刃を張っていたので、課長の指示を受けましたら、一般住宅では280刃を使っているので、間違っ張ったのだらうと、それで張替るよりその上に280刃のメタルラスを二重張りにしなさいと、張替る事は手間もかかるが資材の国家的損失だと指導されました。この時私はこのことが「死んだ魚を如何に上手に生かして使うか」これは監督官の心得ではないかと思いました。米国系雑誌リーダーズダイジェストの中に「ナポレオン戦術」と題して、つぎの事が書かれていました。それはある地点の攻撃作戦会議の後、いよいよ攻撃にかかってしばらくして侍従が、「閣下、A地点は作戦通り、うまく行っています。」と報告したところ、閣下は「作戦がうまく行ってる時は報告しなくてもよい、悪くなった時こそ直ちに報告しなさい。その時こそ、僕の知恵が必要だ。」と書いてありました。この言葉も又監督官には参考にすべき事柄だと思いました。

私は現場監督員として、大工、左官等色々の職人に接しますが、ほとんどの人が色々の事情で、中学を卒業して職に付きますが自分自身の努力によって、自分自身の技術という財産を作り、その技術に依って社会に貢献してるのだと思うと、なんと素晴らしいことだと思い、各職人の人達と接しています。働いて賃金を得る事はその行為が、世のため人のためになっているからで、職業に貴賤はないものと思っています。

## 4章 建築士会の思いで

日本建築士会連合会の総会に出席し、建物の見学及び観光地巡りで、沖縄海洋博、長野市の冬季オリンピック施設の見学、上高地の観光など「百聞は一見にしかず」といわれているが、まさにその通りだと思いました。

別府支部も青年部が、研究会やスポーツ特にソフトボールは県大会にも参加し、活発に活動しています。平成13年度で正会員150名、準会員11名計161名となっています。支部としても毎年1回の研修旅行が楽しみで毎年参加しています。特に記憶に残っている建物は、宮崎県的美術館と鹿児島県庁舎の建物で、百年、弐百年いやそれ以上もと考えて設計施工されたものと思いました。建築基準法も時代にそって度々変更され講習会も大変ですが、真剣に取り組まなければと思っています。

喜寿の節目に当り駄文の筆を置きます。

## 記念公演(要約)



### 講師 渡辺 篤史氏

プロフィール

1947年 茨城県生まれ。日本大学出身。

シリアスから娯楽作品まで、数多くのテレビ・映画に出演。

近年ナレーション・司会、さらに住宅番組のライター等々その活動の幅を広げて活躍中。

趣味はオーディオ・テニス等色々あるが、中でも建築にはだいぶ前から興味を持ち、専門書を読み講演会を聞きに行ったりしていた。

ライターを務める「建もの探訪」(テレビ朝日)は、14年目を迎えまさにライフワークといえる。

私が生まれた所は、茨城県筑波山麗付近の田舎で、約600坪の敷地に50坪くらいの平屋と蔵が続きでありました。

私にとって蔵は、厚い壁に太い梁、薄暗く「ホッ」と、安心する空間でした。蔵の湿った匂いと高い窓から射してくる陽の光、そして格子の窓から見える夕焼けを今でも覚えています。

そのころの私はひがな表で遊びまわり、帰ってくると必ず蔵に入りしばらく休む。

そしてゆうげの匂いに誘われて、母屋に戻る。そんな生活でした。

私の建物に対する興味の根源は、その蔵での生活からきているのではないのでしょうか。

そんな幼年時代を過ごしたものですから、「建物探訪」なんて番組をやらせて頂いている訳ですが、この番組も始まりましてもう14年になります。現在では個人住宅が主ですが、実は沖縄の公共建築物からのスタートだったんですよ。

初回は、沖縄の城西小学校という、原廣司氏の設計した建物だったのですが、ご存知ですか原廣司氏？有名といえば、京都駅の設計を手掛けられた方ですね。

現在では、小学校等も地域性を出すのが主流となってきたみたいですが、その初めの頃になるのではないのでしょうか。

城西小学校の校舎の外観は白色で、赤瓦が葺いてあり、赤道付近の建築物といった感じでした。

その屋根の赤瓦の裏には、全校生徒が名前を書き込んであり、校舎作りに参加し、校舎に特別な思いを持つようにと工夫されたのではないのでしょうか。

こうすれば校舎に吸い寄せられるように、故郷のことも思い出すのではと、私は思いました。

校舎の中も地域性を出していたのではないのでしょうか。例えば教室、通常壁できっちり間仕切られていますよね。

しかし壁がないオープン形であった。

生徒は開放感があっていいでしょうし、設計者もそう望んだと思いますが、先生方は大変でしょうね。壁がないと

いうことは隣の先生の声が筒抜けということですから。自分の授業を聞いてもらう為には、しっかり声を出して、授業のやり方を工夫しないといけないわけですから。

また図書館では、床に穴を設けて、そこに座ったり、ごろっと寝転がったりと、子供達がリラクセスして自分が読みたい姿勢で、読みたい本を読めるように工夫されていました。

今では、今お話しした内容も珍しくはないのでしょうかけど、その当時は大変画期的な事だったんです。

それと、校舎の所々にはオブジェが設置されていました。

大分の街にも、象さんやカバさん等の動物のオブジェが有って、微笑ましく感じますよね。そのオブジェ単体には意味はないのかもしれませんが、校舎や町全体にちらばってあり、何も考えずに歩いている時に、ふっと目にとまって心が和む。そんな配慮がとても素敵だと思います。

そんな風に公共建築物から始まり、個人住宅を取材するようになって、今日に到る訳ですが、私たちの番組の功績は、建築士と施主さんとの距離を縮めた事にあるのではないかと考えております。

建物があって都市がある訳ですが、今ではどこの都市も、屋根のとんがった部分ばかりが、矢のように見えて少し怖いように感じます。

もっと緑を大切に、建物と緑の調和のとれた街並みにした方が、良いのではないかと思います。

せめて大分だけで良いですから、緑の中に建物がある、そんな雰囲気大切にしていって欲しいです。

最後に「地は雲、宇宙は海」という言葉をもって締めさせていただきます。

知識はどんなにもってても雲の如し、無知な部分は海の如くたくさんあると。皆様たくさん経験から知識を得ていらっしゃると思いますが、これからも色々な事にチャレンジして勉強していきたく思います。今日は長い時間ありがとうございました。

# 個人表彰者名簿

## 叙勲

勲五等瑞宝章	昭和43年 4月	川崎 喜一 (大分支部)
勲五等瑞宝章	昭和57年 4月	太田 忠男 (大分支部)
勲五等双光旭日章	平成元年11月	阿部 清 (大分支部)
勲三等旭日中綬章	昭和51年11月	小管 百寿 (大分支部)

## 褒章

黄綬褒章	昭和36年11月	川崎 喜一 (大分支部)
黄綬褒章	昭和51年11月	後藤 博 (別府支部)
黄綬褒章	昭和55年 4月	太田 忠男 (大分支部)
藍綬褒章	昭和54年11月	菅 幸雄 (大分支部)

## 建設大臣 表彰

昭和39年	社団法人 大分県建築士会 (団体表彰)
昭和47年	森 武生 (大分支部)
昭和48年	後藤 博 (別府支部)
昭和50年	太田 忠男 (大分支部)
昭和54年 7月	阿部 清 (大分支部)
昭和55年 7月	後藤 元 (中津支部)
昭和56年 7月	川崎 力太 (大分支部)
昭和57年 7月	畔津文次郎 (大分支部)
平成元年 7月	嵯峨 春雄 (佐賀関支部)
平成 4年 7月	青柳 寿人 (日田支部)
平成 5年 7月	今永 和之 (宇佐支部)
平成 6年 7月	井上 成昭 (大分支部)
平成 8年10月	佐々木昭正 (臼杵支部)

## 建設省 住宅局長 表彰

平成7年10月	社団法人 大分県建築士会 中津支部 (団体表彰)
平成8年10月	釘宮 覚 (大分支部)

## 知事 表彰

昭和51年11月	太田 忠男 (大分支部)
昭和53年11月	阿部 清 (大分支部)
昭和56年11月	畔津文次郎 (大分支部)
平成元年11月	村松 幸彦 (大分支部)
平成13年11月	幸 康生 (別府支部)

## 社団法人 日本建築士会連合会長 表彰

連合会創立15周年記念表彰		
昭和42年10月	川崎 喜一 (大分支部)	
	岡崎 寿 (大分支部)	
	太田 忠男 (大分支部)	
	小野 順一 (大分支部)	
	三浦 怜三 (大分支部)	
	江藤 満 (大分支部)	
	山崎 河 (大分支部)	
	阿部 清 (大分支部)	
	恒藤 元 (中津支部)	
	中島三代子 (本部事務局員)	

連合会創立25周年記念表彰		
昭和52年11月	宇畠島 弼 (高田支部)	
	田辺 三郎 (高田支部)	
	成重 国彦 (高田支部)	
	河野 益美 (国東支部)	
	北村 虎治 (国東支部)	
	谷口 育三 (国東支部)	
	渡辺惣一郎 (別府支部)	
	豊島 晋 (大分支部)	
	安部 正春 (大分支部)	
	岩崎 謙市 (大分支部)	
	太田 信夫 (大分支部)	
	工藤 彪一 (大分支部)	
	野上 秀夫 (大分支部)	
	中村 秀雄 (臼杵支部)	
	藤原 実 (臼杵支部)	
	石井 道助 (臼杵支部)	
	西 賢 (三重支部)	
	深田 斉 (三重支部)	
	木谷 由夫 (竹田支部)	
	尾方 一馬 (玖珠支部)	

安部 清臣	(玖珠支部)	平成 8年10月	飯田 郁夫	(大分支部)
諫山 俊一	(日田支部)		松山 忠幸	(中津支部)
高場 実	(日田支部)	平成 9年10月	穴見 弘	(国東支部)
村上 平米	(中津支部)		赤嶺 光男	(宇佐支部)
高橋 涉	(宇佐支部)	平成10年11月	麻生 征一	(大分支部)
佐用美代子	(三重支部事務局職員)		志賀 隆保	(佐伯支部)
局 葉子	(中津支部事務局職員)	平成11年10月	沖本 進	(大分支部)
中島三代子	(本部事務局職員)		山名 義弘	(別府支部)

平成12年10月	佐藤 周太	(大分支部)
	安部 一夫	(高田支部)
平成13年10月	高橋 文洋	(大分支部)
	野木誠一郎	(日田支部)

#### 連合会創立40周年記念表彰

平成 4年10月	今永 和之	(宇佐支部)
	釘宮 覚	(大分支部)
	高瀬 茂	(佐伯支部)
	森 博文	(三重支部)
	作用美代子	(三重支部事務局職員)
	酒井多嘉子	(竹田支部事務局職員)
	甲斐 茂子	(高田支部事務局職員)
	菟川 知子	(本部事務局職員)

#### 伝統的的技能者表彰

昭和54年11月	長野 俊平
昭和55年 9月	三浦 誠市
昭和56年10月	幸 勝喜
昭和57年10月	高山 房四
昭和60年10月	清水 英雄(宮大工)(中津支部)
昭和61年10月	清里 弁(建築大工)(国東町)
昭和62年10月	沓掛 均(左官)(三重町)
平成元年11月	川野 敏幸(建築大工)(弥生町)
平成 2年10月	生野 盛(屋根葺工)(佐賀関町)
平成 3年 9月	桜井 一義(檜皮葺工)(中津支部)
平成 4年10月	菅田 久(建築大工)(佐伯市)
平成 7年10月	岡村 昭三(建築大工)(大分市)
平成 8年10月	渡辺 茂(左官)(佐伯市)
平成 9年10月	幸 康生(宮大工)(別府支部)
平成10年11月	今井 勇(建築大工)(日田支部)
平成11年10月	寺岡 克巳(建築大工)(佐伯市)
平成13年10月	木 次男(宮大工)(佐賀関町)

#### 一般会員表彰

昭和47年11月	畔津文次郎	(大分支部)
昭和50年 9月	岡崎 寿	(大分支部)
昭和51年11月	阿部 清	(大分支部)
昭和53年11月	野村 重一	(大分支部)
昭和54年11月	小野喜久男	(津久見支部)
昭和55年 9月	嵯峨 春雄	(佐賀関支部)
昭和56年10月	二串 啓治	(日田支部)
昭和57年10月	小野 俊平	(臼杵支部)
	秋永 大作	(中津支部)
	鈴木 正美	(佐伯支部)
昭和58年10月	松田 竹己	(宇佐支部)
昭和59年10月	仲摩 衛	(大分支部)
昭和60年10月	佐藤 耕策	(大分支部)
昭和61年10月	村松 幸彦	(大分支部)
昭和62年10月	辻 隆司	(大分支部)
昭和63年10月	中村 宗邦	(大分支部)
平成元年11月	岩瀬八洲夫	(大分支部)
平成 2年10月	首藤 俊二	(大分支部)
平成 3年 9月	青柳 寿人	(日田支部)
平成 5年 9月	山崎 徳男	(大分支部)
	風戸 清	(佐伯支部)
平成 6年10月	佐々木昭正	(臼杵支部)
	有元 保夫	(大分支部)
平成 7年10月	安部 邦弘	(中津支部)
	松井 基泰	(竹田支部)

#### 団体表彰 まちづくり賞

平成10年1月	社団法人 大分県建築士会 臼杵支部
---------	-------------------

#### (社)日本建築学会表彰

昭和37年	作品	大分県庁舎	九州地方建設局営繕部
昭和41年	作品	大分県立大分図書館	磯崎 新
昭和50年	作品	群馬県立近代美術館	磯崎 新
昭和62年	論文	建築環境情報計算処理の研究	山崎 均
平成元年	論文	ハンディキャップ者配慮住宅の研究	片岡 正喜
平成 4年	論文	無機複合材料に関する研究	平居 孝之
平成 8年	論文	セメントの諸特性に関する研究	永松 静也
平成13年	業績	リファイン建築	青木 茂



昭和26年 7月 大分県建築士会第1回設立発起人会を大分県教育委員会館にて開催  
 昭和26年 8月 任意団体として大分県建築士会を発足、事務所を大分県庁建築課内に置く。会員数454名  
 昭和26年11月 『大分建築士』創刊号の発行  
 昭和27年 4月 会員数590名  
 昭和32年 4月 会員数607名  
 昭和33年12月 本会を社団法人に改組、社団法人認可大分県指令第1494号  
 昭和37年 4月 会員数655名  
 昭和38年11月 「第8回建築士会全国大会」を別府市にて開催  
 昭和42年 4月 会員数830名  
 昭和42年11月 創立15周年記念式典を大分商工会館にて開催(『記念建築写真集』発行)  
 昭和44年 8月 会員数890名

昭和26年(1951年) ・昭和26年12月「第1回NHK紅白歌合戦」始まる。 昭和44年(1969年)

昭和26年7月 大分県建築士会初代会長 野添 彰  
 平成31年4月 会長 松浦 正晴  
 平成34年7月 会長 許士 武敏  
 平成38年2月 会長 一ノ瀬周太郎  
 平成40年5月 会長 川崎 喜一

昭和26年支部発足 初代支部長  
 大分(阿部清) 別府(池田三比古) 中津(米沢隆宣) 日田(横田通) 佐伯(吉岩史郎) 臼杵(神田文雄)  
 津久見(小野豊吉) 佐賀関(嵯峨重八) 宇佐(神田勇) 高田(宇留島弼) 国東(柴田定) 竹田(菊池秀夫)  
 三重(三浦冷三) 玖珠(尾方一馬)

支部の名称	支部の区域
高田支部	豊後高田市 喬々地町 真玉町 大田村
国東支部	国見町 国東町 武蔵町 安岐町 姫島村
別府支部	別府市 杵築市 日出町 山香町
大分支部	大分市 野津原町 狭間町 庄内町 湯布院町
佐賀関支部	佐賀関町
臼杵支部	臼杵市
津久見支部	津久見市
佐伯支部	佐伯市 上浦町 弥生町 宇目町 鶴見町 蒲江町 本匠村 米水津村 直川村
三重支部	三重町 大野町 犬飼町 野津町 緒方町 朝地町 千歳村 清川村
竹田支部	竹田市 荻町 久住町 直入町
玖珠支部	玖珠町 九重町
日田支部	日田市 大山町 天瀬町 前津江村 中津江村 上津江村
中津支部	中津市 本耶馬溪町 耶馬溪町 山国町 三光村
宇佐支部	宇佐市 院内町 安心院町



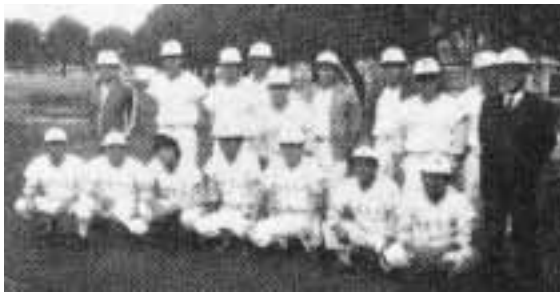
「第8回建築士会全国大会ゴルフコンペ」

建築士の歌  
 井上 一三 作詩  
 峰岸 一三 作曲

1、晴れ渡る 世紀の空に  
 楳音は 湧えてとゞろく  
 この力 更に加えて  
 同胞の 幸を護らん  
 おゝわれら われら建築士

2、日に進む 時代を越えて  
 新たなる 文化つちかう  
 この理想 高くかざして  
 悠久の 平和築かん  
 おゝわれら われら建築士

3、巣立ち行く 若き日本に  
 建設の 使命果てしなき  
 この技術 共に磨きて  
 明日への 飛躍誓わん  
 おゝわれら われら建築士



「第1回建築士会ソフトボール大会」



「大分県中部地震災害調査」

- 昭和47年 4月 創立20周年記念式典を大分商工会館にて開催 会員数991名
- 昭和48年 3月 会員数1,025名
- 昭和50年 2月 『建築士大分』第1号発刊 以後年4回発行
- 昭和50年 4月 大分県中部地震災害調査
- 昭和50年11月 第1回建築士会ソフトボール大分県大会開催、8支部10チーム参加  
優勝 日田支部、準優勝 佐伯支部、以後毎年各支部にて開催
- 昭和51年 3月 国立大分大学工学部に建築系学科設置の要請
- 昭和51年 9月 「青年建築士九州ブロック会議」を別府市にて開催
- 昭和51年10月 事務所を県建築課より大分恒和ビル7階に移転

昭和47年(1972年)

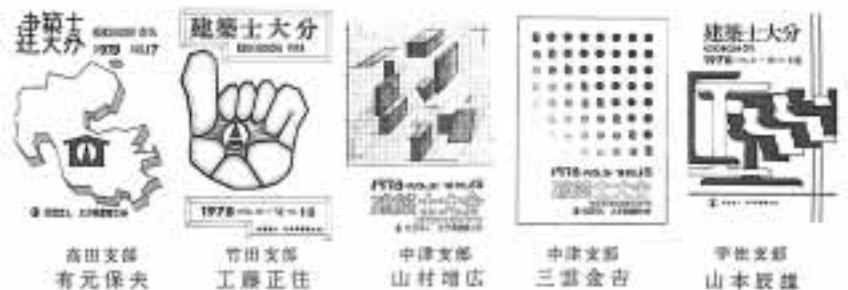
・昭和50年耶馬溪線の廃止

昭和51年(1976年)

- |          |                          |         |         |          |            |
|----------|--------------------------|---------|---------|----------|------------|
| 昭和46年10月 | 大分市、特定行政庁となる             | 昭和48年5月 | 会長 阿部 清 | 昭和61年 9月 | 津久見支部青年部発足 |
| 昭和50年 4月 | 大分支部青年部発足                | 昭和62年   |         | 昭和62年    | 三重支部青年部発足  |
| 昭和50年    | 日田支部青年部発足                | 昭和62年   |         | 昭和62年    | 玖珠支部青年部発足  |
| 昭和50年    | 臼杵支部青年部発足                |         |         |          |            |
| 昭和50年    | 中津支部青年部発足                |         |         |          |            |
| 昭和51年 7月 | 別府支部青年部発足                |         |         |          |            |
| 昭和51年度   | 大分県建築技術職員競技会発足(会長 栗田 宣幸) |         |         |          |            |
| 昭和51年    | 佐賀関支部青年部発足               |         |         |          |            |
| 昭和55年    | 国東支部青年部発足                |         |         |          |            |
| 昭和57年 5月 | 高田支部青年部発足                |         |         |          |            |



“建築士大分” 表紙デザイン入選発表





- 昭和52年 4月 会員数1,687名
- 昭和52年11月 創立25周年記念式典を杉の井ホテルにて開催(記念誌発行)  
同記念行事、設計競技開催 入選1席:大分支部 三浦 浩志  
2席:鶴崎工業高校3年 伊賀上 彰、馬見 塚宏
- 昭和53年 5月 第1回海外建築研修旅行(アメリカ合衆国)
- 昭和54年4月~5月 第2回海外建築研修旅行(ヨーロッパ諸国)
- 昭和54年 8月 中国武漢市訪問
- 昭和55年 2月 「九州ブロック建築士研究集会」を別府市にて開催
- 昭和55年11月 建築士法・建築基準法施行30周年記念『80建築祭おおいた1』を大分パルコにて開催
- 昭和56年 4月 『九州建築ガイドブック』の編集担当県としてまとめる(編集功労者:村松 幸彦、辻 隆司)
- 昭和56年 6月 第1回大韓建築士協会会員来県、その後相互交流始まる  
ブラジル建築技術研修生受け入れ
- 昭和56年 7月 第3回海外建築研修旅行(シンガポール)

昭和52年(1977年)

・昭和53年 日中平和友好条約調印

昭和56年(1981年)

昭和52年5月 会長 太田 忠男

- 昭和52年 別府支部青年部、温泉まつり参加事業として「目で見える建築資料展と建築無料相談室」開催
- 昭和52年度 大分大学工学部に建設工学科が設置される(定員40名)
- 昭和53年 9月 竹田支部、岡城観月と火祭り花火大会開催
- 昭和53年11月 玖珠支部 玖珠郡文化祭参加
- 昭和55年 2月 東国東郡建築士青年会を会員15名で結成
- 昭和55年 7月 佐伯支部、『建築士佐伯』発刊



「大韓建築士協会交流会」



「第2回海外建築研修旅行」



「建築士会ソフトボール大会」継続







- 昭和57年 8月 会員数2,116名
- 昭和57年10月 創立30周年式典を大分商工会館にてとり行う  
「全国研究集会 新潟大会」にて大分支部 宮田 誠、研究発表
- 昭和58年 6月 県下の歴史的な町並みや建造物をまとめた『建築士おおいた特集号 大分の町並み』を発行
- 昭和58年 7月 「建築士九州ブロック研究集会」を別府市で開催  
発表者:三浦 肇、穴井 輔嘉、西胤 和弘
- 昭和58年 「全国研究集会富山大会」にて高田支部 西胤 和弘、研究発表
- 昭和59年10月 (社)岩手県建築士会と姉妹建築士会締結、村松 幸彦会長と岩手の久慈 次男会長が調印
- 昭和59年 木造建築士大分県第一号生まれる、高田支部榎本廣海

昭和57年(1982年) ・ 昭和58年 参議院議員選挙 比例代表制導入 昭和59年(1984年)

昭和57年5月 会長 川崎 力太

昭和58年5月 会長 村松 幸彦

- 昭和57年10月 佐賀関支部創立30周年記念町並み調査(屋号調査 早吸日女神社、社家とも)
- 昭和57年10月 高田支部共催、第1回国東セミナー開催「東 孝光建築を語る」、以後定期的に開催される
- 昭和58年11月 三重支部、三重町産業文化祭に『三重支部住宅作品展』で初参加
- 昭和59年10月 中津支部、「町並み調査特別委員会」を設置し、市内(豊後町、寺町)の町並み、古建築を調査





- 昭和62年 1月 (社)大分県建築士会青年部を会員数500名で発足
- 昭和62年 6月 「建築士研究集会九州ブロック別府大会」にて津久見支部 小代 宏幸氏、別府支部 山形 裕治、研究発表
- 昭和62年 9月 サマーセミナーが始まる、第1回は大分支部青年部の主催により湯布院で開催  
以後毎年各支部の持ち回り主催となる
- 昭和62年10月 「盛岡市 全国研究集会」にて臼杵支部 大戸 真一、研究発表
- 昭和63年 7月 「建築士の日」始まる。記念行事とともに『ライトアップおおいた』開催
- 昭和63年10月 「建築士会全国研究集会 横浜大会」にて竹田支部 浜原 徹、研究発表
- 昭和63年12月 「建築士の日」記念行事への取組に対して連合会表彰を受ける

昭和60年(1985年)・昭和60年3月 科学万博つくば85開幕 テーマ「人間・居住・環境と科学技術」昭和63年(1988年)

- 昭和60年 1月 中津支部、「旧キャラハン邸調査特別委員会」を発足させ調査を始める
- 昭和60年 大分支部、支部便りとして『FA』を創刊(1991年3月発刊の10号まで続く)
- 昭和60年11月 佐伯支部、「番匠の里づくり展」を佐伯文化会館にて開催
- 昭和60年11月 大分県住宅課、「第1回豊の国木造住宅賞」表彰式を行う
- 昭和61年 9月 津久見支部青年部発足
- 昭和61年10月 津久見支部青年部、『津久見ふるさと振興祭』に出展開始(初回)
- 昭和61年 4月 臼杵支部、支部会報『たくみ』創刊
- 昭和61年 3月 竹田支部、近世社寺建築物調査
- 昭和62年10月 竹田支部、岡城築城800年祭にて、岡城本丸御三階櫓模復元
- 昭和63年 1月 大分支部、『2001年の夢がいよいよ』県立病院跡地利用アイデアコンペ主催



「岡城本丸御三階復元(竹田支部)」



「ふるさと振興祭(津久見支部)」



「旧キャラハン邸(中津支部)」



「中国にて交流協定」



「中国建築視察」

- 平成元年 6月 「建築士会研究集会九州ブロック福岡大会」にて佐伯支部 柳井 豊、研究発表を行い準優勝となる
- 平成2年 5月 「建築士会研究集会」を大分市で開催
- 平成2年 7月 大分県建築士会事務局が中島九条 コーポ・ユーカー1階に移転
- 平成2年 7月 「建築士の日」記念行事として各支部、ウォークラリーを同時開催
- 平成3年 6月 「九州ブロック建築士研究集会」が別府で開催、研究発表者:都瑠 淳一、姫野総一郎、松崎 和夫
- 平成3年 9月 『建築士会ニュース』を月1回発行
- 平成3年 9月 「第34回建築士会全国大会 幕張大会」分科会にて姫野総一郎、松崎 和夫研究発表
- 平成4年 4月 建築士会創立40周年記念「中国建築視察旅行」、『陝西省土木建築学会』と交流協定書の調印
- 平成4年 7月 建築士会創立40周年記念式典を大分市コンパルホールで開催(記念誌発行)

平成元年(1989年) ・平成元年 日本コンベンションセンター(幕張メッセ)竣工 平成 4年(1992年)

平成元年5月 会長 井上 成昭

- 平成元年 7月 建設大臣表彰:蘇我 春雄
- 平成元年 11月 勲三等双光旭日賞受賞:阿部 清、伝統的技能者表彰:川野 幸、大分県知事表彰:村松 幸彦
- 平成2年度 建築士会連合会主催コンペで二作品入賞  
銅 賞:西嵐 和弘、永松 洋、樋口 邦宏、奨励賞:花田建設一級建築士事務所
- 平成2年 佐賀関支部、関崎半島夢計画(SPD)案完成
- 平成3年 3月 臼杵支部、旧真光寺の現状調査及び修復計画の策定を始める
- 平成3年 5月 玖珠支部、玖珠町日本童話祭参加
- 平成3年 10月 佐伯支部、「山中家(武家屋敷)」調査
- 平成4年 9月 臼杵支部、「旧真光寺」修復工事完成、一般公開開始まる



「大分たなばた祭り 府内パッチン(大分支部)」



「山中家調査(佐伯支部)」



「天安門広場にて」



- 平成5年 2月 「九州パッションIN長崎」にて臼杵支部 後藤象二郎 研究発表
- 平成6年 大分県建築士会「まちづくり推進協議会」設立
- 平成6年 4月 「九州ブロック建築士会研究集会 沖縄大会」にて佐賀支部 渡辺 豊基、研究発表
- 平成6年 5月 建築士会事務局が田原ビル2階に移転
- 平成6年 9月 中国研修旅行において、『陝西省土木建築学会創立五十年式典』に出席

平成5年(1993年) ・平成5年 6月9日 皇太子御成婚 平成6年(1994年)

平成7年 会長 飯田 郁夫

- 平成5年 3月 臼杵支部、大分放送文化財団からの助成金で町なみ「景観ガイドライン」作成、発行
- 平成6年度 日田支部、日田市の用途地域作成協議会に参加、新用途地域プランを作成、提案
- 平成6年度 建築士会連合会主催懸賞設計競技にて宇佐支部、花田 康一、久保 和子の作品が入賞
- 平成6年 佐賀支部、関崎半島夢計画実現(海星館竣工)
- 平成6年 4月 佐伯・延岡・幡多の三支部交流(トライアングル94)を宿毛市で行う
- 平成6年 4月 玖珠支部、「春日町街並み環境保全基本計画」策定
- 平成6年 8月 大分支部青年部、「世界の建築保存再生展・磯崎 新・現県立図書館の行方」を赤レンガ館で開催
- 平成6年 9月 大分支部、北米研修旅行
- 平成6年 10月 大分支部、大分市の依頼により『戸次本町街並み環境整備方針』を策定
- 平成6年 12月 士会及び事務所協会の高田支部、『豊後高田市都市計画計画提案報告書』を作成し、豊後高田市に提出
- 平成6年 「大分市建築大賞」創設、平成7年2月に第1回表彰式を竹町ギャラリーで行う



「佐伯・幡多・延岡支部交流会」  
(トライアングル94)



「建築士の日「子供サミット」(臼杵・真光寺)」



- 平成7年 2月 大分県建築士会、兵庫県建築士会へ阪神淡路大震災のお見舞いをする
- 平成7年 2月 「九州パッションINみやざき」にて大分支部 野中 悌二、研究発表
- 平成7年 6月 「九州ブロックIN佐賀」にて佐伯支部 桑田 一敏、研究発表
- 平成7年 7月 「九州ブロック青年建築士の集い福岡大会」にて  
佐賀関支部 渡辺 豊基、大分支部 笠木 忠昭、研究発表
- 平成7年 9月 第9回サマーセミナーIN宇佐
- 平成8年 2月 「九州パッションINおおいた」を大分市で開催、臼杵支部『臼杵の町づくり』について発表
- 平成8年 6月 「建築士の日」記念行事、臼杵市で『親子で参加・臼杵まちなみウォッチング』と  
『子供サミット』開催
- 平成8年 6月 「九州ブロック建築士の集い長崎大会」にて宇佐支部山内英生、津久見支部中津留幸正、研究発表
- 平成8年 9月 『大分県建築士会ニュース』は60号をもって終了

平成7年(1995年)

・平成7年1月阪神・淡路大震災起こる

平成8年(1996年)

平成7年 会長 飯田 郁夫

- 平成7年1~2月 中津支部、阪神淡路大震災援助ボランティア参加(3名)
- 平成7年 3月 臼杵支部、臼杵市の依頼により『臼杵市街並み環境整備方針』を策定
- 平成8年 中津支部、「パティオタウンなかつ再生計画」をプレゼンテーション
- 平成8年 3月 大分支部、大分市の依頼により『戸次本町街並み環境保全基本計画』を策定



「阪神淡路大震災 ボランティア参加(中津支部)」



「臼杵市街並み環境整備方針」策定作業(臼杵支部)



「戸次本町 基本計画」



「玖珠支部」



「九州パッションin久留米」(浅野氏優秀賞受賞)」

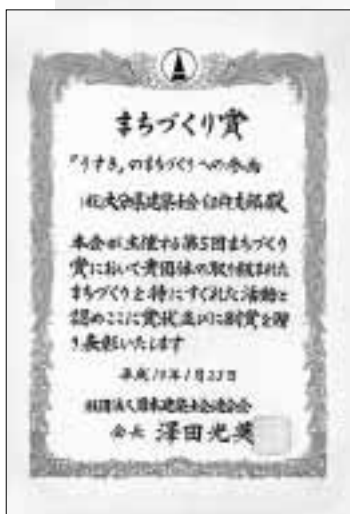


「浅野氏研究発表」

- 平成 9年 4月 大分県建築士会女性部会が会員数44名で誕生、初代会長 開 静子
- 平成 9年 6月 「九州ブロック建築士の集い宮崎大会」にて中津支部 井上 彰、パティオタウン中津の活動報告を行う
- 平成10年 2月 「九州パッションINキリシマ」にて設計競技“新世紀の住まいの場”で臼杵支部優秀賞受賞
- 平成10年 6月 「九州ブロック建築士の集い 沖縄大会」にて、宇佐支部 山内 英生、佐賀関支部 渡辺 豊基発表
- 平成10年7-8月 「建築士の日」記念行事として『大分が生んだ建築家 三人展』を大分市アートプラザで開催(滝 大吉、吉武 東里、磯崎 新)
- 平成11年 2月 「九州パッションIN久留米」にて別府支部 浅野 健治研究発表し優秀賞を受賞
- 平成11年 6月 「九州ブロック建築士研究集会」が別府市で開催、今田 和徳、研究発表を行う

平成9年(1997年) ・平成10年2月 冬季オリンピック長野で開催される。 平成11年(1999年)

- 平成 9年 3月 臼杵支部、臼杵市の依頼により『臼杵市街並み環境整備計画』を策定
- 平成 9年 5月 中津支部、「まちづくり委員会」発足
- 平成 9年 9月 臼杵支部、臼杵市から「臼杵城趾 大門櫓復元工事」の計画依頼を受け実施設計始める
- 平成10年 1月 臼杵支部(社)日本建築士会連合会より「まちづくり賞」受賞
- 平成10年 佐伯支部 佐藤 功氏、竹田支部 川野 和男、『ふるさと二人展』を佐伯図書館にて開催
- 平成10年 日田支部、隈の町並み調査
- 平成11年 3月 竹田支部、竹田市の依頼により「竹田の街並み現状調査報告書」を策定
- 平成11年 7月 佐賀関支部、住まいとコミュニティネットワーク木採(現在継続中)
- 平成11年 9月 竹田支部、市制45周年にて、岡城大手門櫓模擬復元
- 平成11年10月 臼杵支部、「第22回全国町並みゼミ 臼杵大会」の開催に全面協力



「まちづくり賞」



「岡城大手門復元(竹田支部)」



「第22回全国町並みゼミ臼杵大会(臼杵支部)」



「創立50周年記念式典来賓者受付」



「地質調査実演講習（中津支部）」



「第15回サマーセミナーin別府（別府支部）」

- 平成12年 3月 当会（財）大分県建築住宅センター設立に出賞
- 平成12年 7月 「建築士の日」協賛行事として、各支部会員によって木造住宅の無料耐震診断を実施
- 平成13年 9月 第15回サマーセミナー IN 別府
- 平成13年10月 会員数2,084名、「ぶんご連絡協議会」が建築士会、事務所協会、建設業協会住宅センターの四団体により設立される
- 平成14年 5月 建築士会創立50周年記念式典を大分市コンパルホールで行う
- 平成14年 6月 会員数1,878名

平成12年(2000年) ・平成14年 日韓共催「ワールドカップ」サッカー開催 平成14年(2002年)

平成13年 会長 岩瀬八洲夫

- 平成12年 2月 竹田支部、竹田市の依頼により「街並み環境整備方針」を策定
- 平成12年 3月 中津支部、地質調査（スウェーデン式サウディング試験）実演講習
- 平成12年 4月 臼杵支部、臼杵市の依頼により「旧可児醬油蔵」実測調査実施
- 平成13年10月 津久見支部、『ふるさと振興祭』ホーパークラフトを出展
- 平成13年10月 臼杵支部、「(社)日本ナショナルトラスト協会 全国大会in臼杵」の開催サポート
- 平成13年10月 別府支部 豊の国IT塾 開催
- 平成13年10月 臼杵支部、臼杵城址 大門櫓の復元工事を完成させる
- 平成14年 日田支部、豆田町まちなみ調査
- 平成14年 6月 三重支部「先輩・地域の方と語る会」県立三重高校にて開催（講師：首藤陽蔵）
- 平成15年 1月 臼杵支部、会報『たくみ』、200号を迎える予定



「ナショナルトラスト（臼杵支部）」



「ふるさと振興祭（津久見支部）」



「街並み環境ナショナルトラスト（竹田支部）」

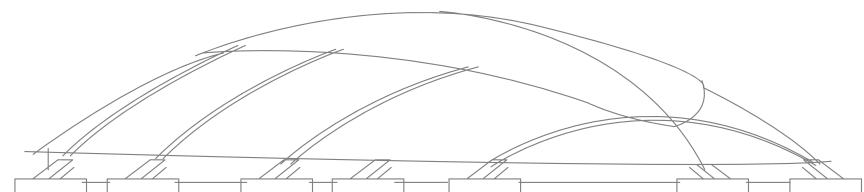


「臼杵支部会報誌第1号（臼杵支部）」

# 建築士 おおた

## CONTENTS

- 32 九州ブロック「建築士の集い」福岡大会  
宇木 晃
- 
- 33 門司港レトロ巡り  
南 宏治
- 
- 34 建築業務とCAD(実務編その4)  
<大分支部> 江藤 邦雄
- 
- 36 わたしの建築MY WORK  
日田支部・中津支部・臼杵支部・津久見支部
- 
- 38 会員紹介 中津支部・津久見支部・竹田支部・佐賀関支部
- 
- 40.インフォメーション
- ～ 臼杵支部 ～ 藤澤 正治
  - ～ 佐賀関支部 ～ 編集委員 佐々木 浩
  - ～ 津久見支部 ～ " 濱野 一明
  - ～ 佐伯支部 ～ 富松智佐美
  - ～ 竹田支部 ～ 田島 薫
  - ～ 日田支部 ～ 編集委員 武内 淳一
  - ～ 宇佐支部 ～ 編集委員 桜田 康一
- 
- 48 舌検隊 in 中津 <大分支部> 宮崎 敏信
- 
- 50 シリーズ登録文化財 No.8
- 
- 51 行政だより 大分県建築住宅課
- 
- 53 通常総会報告
- 
- 55 事務局だより
- 
- 58 まちづくり活動助成事業完了報告  
中津支部・玖珠支部・佐賀関支部
- 
- 61 編集後記





# 九州ブロック 「建築士の集い」 福岡大会

去る6月22日に北九州市にて九州ブロック「建築士の集い」福岡大会があり、中津支部青年部水曜喫茶室が昨年度から取り組んできた「島田本町街並みづくり活動」についての活動報告を第一分科会で発表する事になりました。

この活動は「中津駅北土地区画整理事業」に盛り込まれた島田本町地区に対して、地元で建築を志すものとして興味がわいてきたと同時に地元から将来の街並みについての相談を受けた事がきっかけとなり、地元の人たちと共にいる活動であります。この事業はまだ先が見えないが、今後も地元との対話を絶やさず継続し、住民のサポート役として行政に対し歴史・観光・環境の調和したイメージの提案をしていきたいと考えています。

このような大会の参加も発表も初体験の私は、まずこの会場である北九州国際会議場に驚かされました。『こんな大舞台上で上手く発表できるのだろうか。...』案の定、壇上に上がると頭の中が真っ白になり卓上に隠れている足の震えを隠すのが必死でした。発表前に「観客はカボチャと思え」と励ましてくれた高榎さん。『見える訳ねーだろ...』発表自体は早口になったものの水曜喫茶室みんなで作成した原稿のおかげで何とかしのいだ。その後の予想もつかないコメントーターとの討論会はテレビの政治討論なみの緊迫した展開となりました。この活動途中参加の私を気付かせて選手交代してくれた長谷川青年部長ですが、一問も活動内容に触れる質問はなく「環境・教育・再生についてどう考えますか。」でした。各県代表者の目も点でした。



緊張まくりで心臓バクバク状態！

さて、研究集会も無事終了し待ちに待った懇親会があります。発表を終えてホッとしたのか、私と青年部長はすきっ腹にやけ酒ならぬやけビールを飲みまくりました。そしてみんな夜の小倉の街に繰り出し消えていきました。



次の日は、門司港レトロ街を見学し遊覧船にてオマールエビを舌つづみしました。(青年部長は二日酔いの為カレーライスを舌つづみ...)

私自身、以前から想像していた小心者である事を痛感したわけですが、一生の内二度とないであろうこのような大舞台上で発表できた事を感謝し、何か次ぎのステップになればと思っています。

P.S この発表の為、連日連夜深夜遅くまで資料を作成して頂いた長谷川青年部長・岩本さんそして山村さん大変ご苦労様でした。

宇木 晃



発表も終わり、ホッと一息。会場前で記念撮影。

# 門司港レトロ巡り

私は、以前から興味のある門司港レトロに行くことが出来ました。行ったことのある人からは、「門司港レトロはいいよ」って聞いていたのですが、どのようにいいの期待を抱きつつ見学することにしました。

着いて最初に感じたことは、門司港レトロには、大正ロマンを思わせるレトロ建築がたくさんあることを知りました。最初にブルウイング門司を渡ることになりました。平成



5年に門司第一船溜まり兩岸のレトロ地域を結ぶ遊歩道の一部として造られました。跳ね橋を見上げるとかなりダイナミックな印象を受けました。しかし、夜の跳ね橋は昼間と違ってとても、ロマンチックな雰囲気を醸し出すようで、私としては夜に見たかった。



ブルウイング門司

次に、マリングート門司に行きました。関門海峡からの海の玄関口として、門を形どったデザインの休憩展望施設です。



1階は、関門連絡船乗り場、視界の広がるプロムナード、市民トイレになっており、2階はガラス張りの休憩展望室となっていました。

マリングート門司のあとは、旧大阪商船を見学しました。大正6年建築のこの建物は、かつては燈台の役目を果たしていたそうです。現在は、門司港レトロのイベント館として、多目的ホールや資料室が作られました。2階は海事資料室になっており、船の模型が飾られていました。船の模型がかっこよくて、できることなら家に持ち帰って、飾りたかった。

そのあとは、門司三井倶楽部に行った。大正10年ごろに建てられ、平成2年に国の重要文化財に指定されました。明治、大正時代の門司港の賑わいを再現した海峡プラザを見学したあと、国際友好記念図書館、旧門司税関に行き、最後に門司港レトロハイマートに行きました。

高さ127mのマンションで、最上階は展望室となっており、関門海峡・関門橋・門司港の街並みが一望できます。



門司港レトロ巡りをした感想としては、町全体が一体となり、地域を活性化させようとするような町づくりが感じられた。私達も見習わなければならない事だと思った。是非、機会があれば、また行ってみたいそんな町のひとつになりました。

南 宏治



門司港ホテル



今回は、JW\_CAD for Windows (以下「JWW」と云い) のデータをDXFファイルに変換して、元データがどのように変換されるか確認してみましょう。【お断り】私はJWWを常用しており、他のソフトは所有していないので体験版にて変換結果を確認いたしました。変換結果を確認した体験版のソフトはAutoCAD LT97・DRA-CAD4・ARCDRAW2000の3つです。

体験版CADソフトの入手先  
 【書籍名】CAD&CG [ソフトウェア]製品ガイド  
 2002>2003年版  
 発行所：(株)エクснаレッジ  
 価格：2,800円+税

#### 変換の手順及び確認

1. JWWにて変換テスト用のファイルを作成する。
2. 作成したファイルをDXF形式にて保存する。
3. 保存したDXFファイルを他のソフトにて開く。
4. 元データと変換したファイルの違いを確認する。

### CADデータをDXF形式に変換する

- 手順1：データ変換テスト用のデータを作成する。  
 今回は私が作成したデータで説明をしますのでインターネットの利用ができる方は下記の手順で入手して下さい。
- (1) 下記URLから変換する元データを取得する。  
<http://homepage2.nifty.com/e-920/cad/cad01.html>  
 ファイル名:henkan\_test01.jww  
 変換テスト用のデータは別途紹介します。
  - (2) ダウンロードしたファイルを任意のホルダーに保存する。
  - (3) 変換テスト用のファイルをJWWで開きます。

- 手順2：元データをDXF形式で保存する。  
 JWWのメニューバーにある「ファイル(F)」を左クリック  
 DXF形式で保存を左クリック、ファイル名はhenkan\_test01.DXFとして下さい。  
 以上でJWW DXF形式へのデータ変換は終わりです。

### 変換結果を確認してみる。

DXF形式に変換されたデータが元データとどのように変わっているかを確認しますが、JWWでDXFファイルに変換したファイルをJWWで開いても元図とあまり変化はないと思いますので、確認は他のCADソフトで行って下さい。

変換結果を確認するため作成したデータは次の通りです。

#### レイヤー

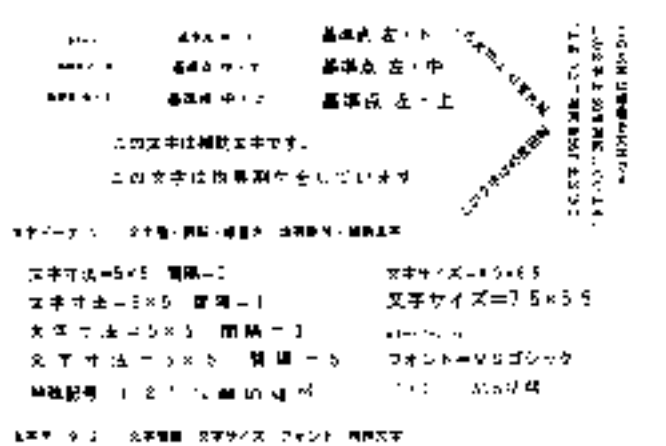
- (複数のレイヤーグループにデータを分けておく)
- 線種・線色 (初期設定を使用しました)
- 文字基点・文字色 (基点9カ所・色は初期設定)
- 文字サイズ・文字間隔 0.5mm間隔でサイズを設定)
- 文字角度・回転 (回転角・縦書文字)
- 寸法線 (両端は点)
- 縮尺混在 (1/1・1/10・1/50)
- ブロック化 (図形・寸法・文字をブロック化)
- ハッチ・塗り潰し (矩形をハッチ・塗り潰し)

次に、これらのテストデータを作成し、ホームページにアップしている資料を紹介します。

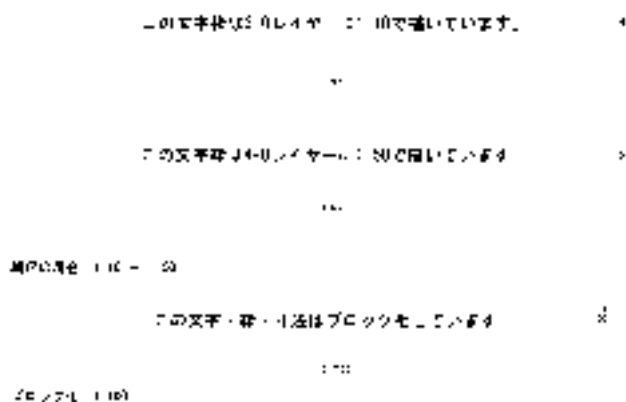
#### 【参考資料1】線種の変換テスト



#### 【参考資料2】文字の変換テスト



### 【参考資料3】縮尺混在時の変換テスト



### 【参考資料4】線色・ハッチ・塗り潰しの変換テスト



話が横道にそれますが、DRA-CADは直接JW\_CAD (DOS版)形式でのデータ保存ができます。入手したDRA-CAD4体験版ではデータの保存(各形式)・印刷ができますので次の2通りの方法で変換をし、結果を比較してみました。

- 1 . JWW DXF DRA-CAD4 DXF JWW
- 2 . JWW DXF DRA-CAD4 JWC JWW

参考データを下記ホームページにアップしておきますのでご覧下さい。

<http://homepage2.nifty.com/e-920/cad/cad01.html>  
 JWW DXF形式:henkan\_test01.dxf  
 DRA-CAD4形式:henkan\_test01.mpz  
 DRA DXF形式:henkan\_test02.dxf

### CADデータ変換のルールづくり

前述しましたが、JWWの場合、【DXFファイルを開く】と【DXF形式で保存する】の操作だけでデータの変換は済むのですが、DRA-CADをはじめ、一般的にはDXFファイルを開く(受け取る)場合と保存する(渡す)場合に種々の設定を行う必要があります。これはDXFファイルの性格上、元データに忠実に変

換させるために必要な設定なのですが、変換を効率良く行うためには変換データを作成する側と受け取る側でCADデータ作成のルールを作っておく必要性を痛感しました。ルールを作成することにより複数の設計者が分担してCADデータを作成する場合にも作業の効率化が図れると思います。

### 【データ変換のルールづくり《例示》】

(株)建築士大分 CADデータ作成要領  
 作成：平成14年8月12日

プロジェクト名：(仮称)建築士大分ビル 新築工事  
 データ形式：DXF形式  
 用紙サイズ：A2 用紙左下原点

#### 図面リスト

図面名	縮尺	ファイル名
敷地配置図	1/200	haiti001.dxf
1階平面図	1/100	heimen002.dxf
2階平面図	1/100	heimen003.dxf

#### レイヤー

作図要素	レイヤー名
通り芯	toori
躯体線	kutai
ハッチ	hachi
寸法線	sunpou
文字	moji

#### 文字

文字種	巾	高さ	間隔 (mm)
文字1	2.5	2.5	0
文字2	3.0	3.0	0
寸法文字	2.5	2.5	0
寸法線			
寸法線離れ	0.2		
円半径	0.3		

### ルールづくりの補足

異なるCAD間でデータ交換を行う場合、次の点に注意することによりスムーズに処理できると思います。

- 1 . 1ファイルに1図面を保存する。
- 2 . ファイル名：半角英数8文字以内とする。
- 3 . レイヤー名：半角英数8文字以内とする。
- 4 . レイヤー分け：線種毎にレイヤー分けをする。
- 5 . 文字データ：文字データの取り扱いが一番苦労します。巾、高さを同寸法とし、間隔は0とする。
- 6 . 縮尺の混在はさせない。
- 7 . 受取る側のCADに合わせてルールづくりをする。

その他、注意すべき点がありますが、紙面の都合で今回はここまでとさせて戴き、詳しいご説明は次回にいたします。

# わたしの建築 MY WORK

**建物名称** (有)イサモト土地企画設計事務所  
**建築場所** 日田市大字田島字大原156 - 1.3  
**建築主** (有)イサモト土地企画  
 代表取締役 諫本憲司  
**設計者** アスカ建築総合研究所 檜原 浩郎  
**施工者** 株式会社 諫山工務所  
**構造・面積** 木造2階建 147.00㎡  
**用途等** 事務所  
**施工** 平成13年11月



豊かな自然に囲まれている大原公園に隣接した小事務所、周辺の緑に調和するよう木や土などの自然の素材を使用し、屋根は外断熱、壁は小舞壁漆喰入り中塗り仕上げとした。構造は杉丸太末口 350を牛梁の垂木構造として、日田杉による骨組みをシンプルに表現した。外壁は西に面しているため窓を小さくし自然に溶け込むように外壁は杉板張りとした。



**建物名称** 院内町営 御沓住宅  
**建築場所** 宇佐郡院内町大字御沓  
**建築主** 院内町  
**設計者** 株式会社 松山設計  
**施工者** 川面建設株式会社  
**構造・面積** 木造（準耐火構造）2階  
 共同住宅部分：1,160.55㎡  
 自転車置場棟：32.40㎡  
 倉庫等：47.88㎡  
**用途等** 共同住宅

この施設は町民の過疎化、高齢化が進む院内町にあり、若者の定住と高齢者が安心して生活できる場を提供する目的で建設された。

この建物の特徴は大型木造共同住宅でもあり安全に生活できるようオール電化を取り入れた。また、『バリアフリーからユニバーサルデザインへ』の考え方から各所に使いやすさを求めた。最大の難問は木造の欠点でもある遮音であったがさまざまな材料の組み合わせにより、ある程度は対応できたと思う。外観は木造の建物を強調したかったが、法的規制でかなり制約された。木造露出部分は燃え代設計を採用し、板目調のサイディングを使用し漆喰塗りと調和させた。構造的には自由な架構と金物の露出のないホームコネクターを採用した。施工的に最初はとまどっていたようだが、進むにつれて慣れて行き最終的に工期の短縮につながったと思う。



完了検査の日 植栽工事で植えた桜が咲き始めたのが印象的だった。

(株)松山設計 岩本

# わたしの 建築 MY WORK

**建物名称** サーラ・デ・うすき  
**建築主** 臼杵市長 後藤 國利  
**設計者** 高橋文 1級建築士事務所  
**施工者** 現代建設株式会社  
**構造・面積** 鉄骨造一部木造 平屋建  
 延床面積 483.45㎡  
**用途等** 集会場（街中にぎわい創出施設）



「サーラ・デ・うすき」の『サーラ』とはポルトガル語で「居間」や「サロン」を意味するもので、市民の憩いの場として多くの人々に愛される施設となるよう願いが込められています。

建物の外観は、臼杵の町に調和するように、西欧のノビシャド（修練院）と日本の蔵造を組み合わせたイメージのものとししました。内部は、市民ギャラリーコーナー、南蛮資料の展示コーナーのほか、陶芸や竹工芸などを年間通して体験しながら学ぶことができる体験工房施設など、市民をはじめ観光客の皆さんにも広く親しんでいただける場所を設けました。

（臼杵支部：佐藤 剛）

**建物名称** 向洋保育園  
**建築主** 古谷和戸  
**建築場所** 津久見市中町

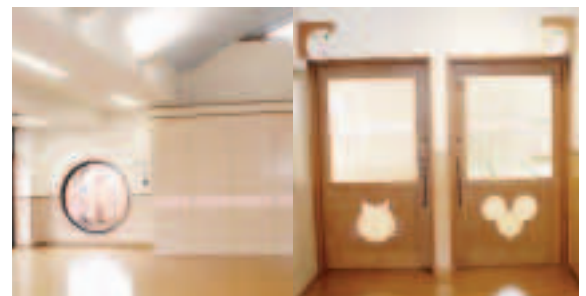
**設計者** 有限会社 トーク建築設計工房  
**施工者** 小代築炉工業 株式会社  
**構造・面積** RC造平屋建 811.20㎡



建物は石灰山と工場に囲まれた悪条件の中に建っています。しかし、東の窓から陽射しを取り入れた教室で児童達の元気な声が響きわたり、雨が降れば児童達はトッライトに流れる雨水の様子をじっと見つめる（水族館に居る感じ？）上空の空間と建物を一体化した設計になっており、周辺の環境を感じさせない開放的な建物です。RC造の堅さ・冷たさを曲面梁



や色彩・家具等のデザインで奥に秘め、細部にわたり児童にやさしく、暖かみのある建物に仕上がっています。

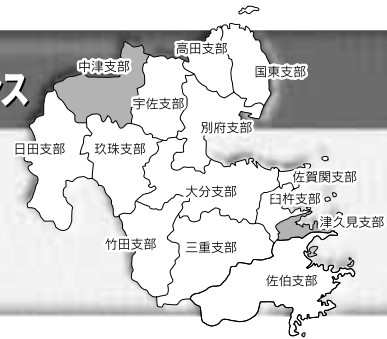


# PERSONAL INFLUENCE パーソナルインフレンス

個人が他人に及ぼす影響力

## 会員紹介

(掲載については順不同です)



生年月日 昭和52年6月15日  
勤務先 中津土木事務所 建築住宅課  
趣味 散歩

### 将来の夢、モットー等

今年の4月に中津土木事務所に異動になり、現在中津に住み始めて4ヶ月が過ぎました。がまだ中津の街中を良く知らないのので散歩がてら歩いて廻るのを楽しみにしているところです。(もう少し涼しくなってから行動しようかと思ってます)

県に入って3年目ですが基準法関係の仕事は始めてで、頭の中に???が飛び回っている状態ですが、自分の中で理解をして成長してく努力をしています。



河野 佑美 (中津支部)



大村 正壽 (津久見支部)

生年月日 昭和26年1月16日  
勤務先 (有)大村家具・大村仏具店  
趣味 雅楽(笙)勉強中

### 将来の夢、モットー等

目下、狭いながらも楽しい我家を目指し?本当に狭い3DKに夫婦と子供4人の6人家族が何とか快適に過ごす工夫はないかと苦戦中です。そんな日々から、「住」について様々な事を考えさせられました。

もともと文系・理系の壁を取り払ったところに、素晴らしいものが生まれるのではないかと考えておりました。さらに、建築の勉強をすることにより新しい世界が広がればと思っています。今は、寺院建築や街づくりの勉強をゆっくりとやりたいと思っています。

先輩諸氏の皆様、どうぞよろしく!

### コメント

新会員ですが「建築士」「福祉住環境コーディネーター」「僧侶」の資格をもち、職場の家具インテリアを手掛けたNEWタイプの建築士です。“支部に活気を満たす大村さんです。”

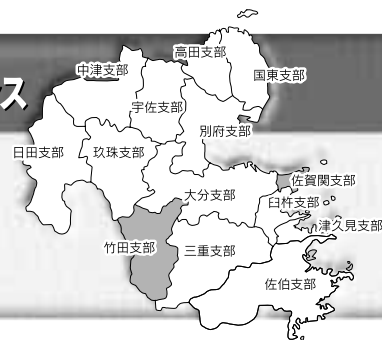


# PERSONAL INFLUENCE パーソナルインフルエンス

個人が他人に及ぼす影響力

## 会員紹介

(掲載については順不同です)



生年月日 昭和51年7月4日

勤務先 (株)松井組

将来の夢、モットー等

一人前の大工になると共に、大工の技術を活かした現場監理のできる建築士を目指したい。

上司より一言

三重農業高校の農業土木科を卒業したが、子供の頃から見えてきた父親の仕事(大工)に憧れ、大分高等技術専門学校で一年間学び、大工として(株)松井組に入社。

昨年3月に結婚。一人で暮らしていた祖母を気遣い、祖母の家で3人暮らしをしている。

現在、市内の史跡岡藩主中川家墓所(高流寺金神堂)の保存修理を手掛けており、当時の技術の素晴らしさと奥の深さを実感しているようだ。今後、住宅をはじめ文化財の仕事にも取り組み、その技術や知恵を学んでいきたいと熱く抱負を語る。



河野 剛(竹田支部)

生年月日 昭和49年4月15日

勤務先 (有)平野・古荘1級建築士事務所

趣味 ぼーっとすること。

小物作り。旅行。温泉。などなど。

将来の夢、モットー等

なにかしら作り続けていきたい。なんでもいい。例えば料理でも、建物でも、野菜でも、くまのぬいぐるみでも。出来たときのあの充実感を味わい続けたい。あの何とも言えない安堵感、ふーっと一息いれる瞬間がたまらない。苦労が多ければ多いほど素敵な物になる。掛けた時間だけ想いがいっぱいの方が出来上がる。うーん、まあ、自己満足なんですけど。さて、私は、女の人にとって第一関門である結婚しても仕事は続けるを無事突破中。次の関門は子供が出来ても仕事は続ける事です。さて、どうなるのでしょうか。

担当者よりひと言

当支部では初の女性会員、紅一点女性の魅力、感覚等を生かして公私ともがんばってください。



大本恵美子(佐賀関支部)





## 臼杵城大門櫓の復元(最終章)

前回(No.82号)までの報告では木工事の加工(ひかり付け)から棟上を終え、左官工事の準備を進めているところで終わっていましたが、今回はその後の建物完成までの最終経過報告を致します。

平成12年12月2日の上棟の後、屋根及び庇の下地杉皮葺きから葺き土、瓦の粗葺きと屋根工事を進める一方、壁下地の竹小舞を組込むなど外壁の左官工事を並行する。外壁に用いる壁土は、近頃 臼杵市内で取壊された旧家の古土に今回新規に用意した土と水、藁すさを加えて混ぜ合わせ定期的に攪拌を繰り返しながら十分な養生期間を置いたものを使い、下塗りとして荒壁を塗り込み、再び十分な乾燥期間を置いた。この間、屋根や庇の瓦を漆喰で固め、屋根工事が完了する。外壁の荒壁乾燥後中塗りとして砂漆喰を施し、2階部分の腰板を取り付け、建具の製作を始める。建具の材料は、1階・門部分の大門扉とその隣の脇戸には樺材を、2階・櫓部分の出入戸と窓(共に引戸)には杉材をそれぞれ使用した。この建具の製作についても出来得る限り古式工法を用いて進められた。再び左官に戻り、外壁の上塗り漆喰仕上げ、内壁の中塗り仕上げを施し、左官工事終了。つづいて外部の木材あらわし部分の塗装が行なわれた。色については、1階部分は建具も含めて敢えて着色はせず、無色の木材保護塗料を塗布する事にとどめたが、2階の腰壁には隣接する畳櫓(平成10年改修済)との調和を考慮して黒色の木材保護塗料を使った。ここまで来ればほぼ完成も同然であるが、この後、屋内外の照明器具や警報装置の設置などを済ませ、外部足場解体撤去、各部の建具を吊込み、1階の大門扉と脇戸に装飾用の門金具を取り付け、最後に一般の通路となる大門下の土間を三和土で均して平成13年10月26日、全工程を終えついに「臼杵城跡大門櫓」が完成(復元)しました。

今年(平成14年)の春先からは臼杵市の教育委員会に協力し、小冊子「大門櫓復元工事概要報告書」も無事発行できましたが、気が付いてみるとこの櫓に関わって実に5年の歳月が経ち、やっと迷路を抜け出したメンバーも頭が少し薄くなっていた。(誰の事?)

臼杵支部 調査研究部：藤澤 正治

県指定史跡臼杵城跡

大門櫓復元工事概要報告書

2002・3

臼杵市教育委員会



## 女性部会定例会in臼杵

平成14年6月1日土曜日、晴れ渡る空の下、第一回女性部会定例会が臼杵で行われました。今回は初の臼杵。臼杵支部青年部の方々に町並みや住宅を案内していただき、その後、女性部会と臼杵支部との交流会も行われ、楽しい定例会となりました。その楽しい定例会の様子を女性部会の戸さんと、臼杵支部の佐々木さんからレポートしていただきました。

### 町並み&住宅探訪 大分支部 戸 禮子

少し日差しが強い好天気にも恵まれた、臼杵の町並みと住宅探訪の1日。県内から集まった女性部会員と臼杵青年部との楽しくて美味しい交流でした。竹宵祭や映画「なごり雪」などで脚光を浴びている臼杵ですが、二王座歴史の道に代表される町並みに加え、築200年以上という板井邸と竹内邸に案内されたのは、今回の研修で大きな収穫でした。実際に改築に関わった青年部の方々が、自信と愛着に満ちた生き生きとした表情で説明して下さる傍ら、"住んでいて満足"という顔でそれを見守る施主さん。この信頼関係と、家に対する愛情に、"男のロマン"を感じたのは私だけでしょうか。石垣に自生するアジアンタムの葉が、爽やかな風に揺れていました。

### 女性部会がやって来た！ 臼杵支部 佐々木 仁志

入梅直前、大分県建築士会女性部会のメンバー16名が臼杵へ研修を兼ねて見学会にやって来ました。つい先頃、完成したばかりの臼杵市の交流施設「サーラ・デ・うすき」の一室を借りて、午前10時から三重野臼杵支部長の「歓迎の挨拶」と臼杵の「町づくり」についておおよその説明のあと、町並み研究特別委員の斉藤氏の案内でさっそく町並み散策へと出掛けました。晴天の青空の下、起伏の多い二王座地区の坂道を上ったり下ったりと、いつもの様に一度話し出したら電池が切れても止まらない斉藤氏の説明満載の見学会となりました。

続く午後1時からの昼食を兼ねた交流会では、臼杵支部からも何を期待したのか？いつもより随分と多目の10名ものメンバー（しかも全員が個性派）が参加して総勢26名という...わが支部では総会や新年会に次ぐ規模の大宴会になってしまいました。女性部会長の阿南さんには予め詳しい内容を説明していなかったもので、初めのうちは多少困惑した様子？であったが...、そこは賢明な阿南部会長のこと、きっと、最後には楽しんで頂けたのではないかと信じております。

また、今回の段取りや時間の配分など臼杵支部サイドの不手際が露呈して特に町並み見学会に対しては消化不良を起こしている方などもいらっしゃるかも知れませんが、そんな方は薬局で胃腸薬を飲んで治りませんで、今一度、ご来臼下さい。処方箋として再びまだ見ぬ町並みをご案内致したいと思えます。



様々なまちづくり活動を展開している臼杵支部と、好奇心旺盛で活動的な女性部会との交流はとても楽しいものでした。女性部会のメンバーも今回だけじゃもの足りない！と、また臼杵へ訪れることを固く誓い、帰途につきました。

訪れるたびに、ゆるりゆるりとちょっとした変化と変わらない何かを見せてくれる臼杵のまちなが、今度は「竹宵」楽しみです。

(臼杵支部・久野)



## 臼杵土木事務所長旗争奪 三支部ソフトボール大会

第26回臼杵土木事務所長旗争奪三支部ソフトボール大会及び懇親会がこのほど、6月15日佐賀関町田中グラウンドで開催されました。

今大会は、佐伯支部、竹田支部が乱入?!し、5支部で開催することとなりました。

まず、試合前のアトラクションとしてホームラン競争をしました。ホームランラインを内外野のインフィールドラインに設定し1チーム2人で争いました。距離は近いけど、力みすぎて意外とホームランは出ません。また、ファールを打った場合はペナルティーとして1球500円をチャリティー金としていただきました。

ホームラン競争の結果は以下の通りです。

- |    |       |         |        |
|----|-------|---------|--------|
| 1位 | 臼杵支部  | ホームラン4本 | ファール2本 |
| 2位 | 佐伯支部  | ホームラン3本 | ファールなし |
| 3位 | 津久見支部 | ホームラン3本 | ファール1本 |
| 4位 | 竹田支部  | ホームラン2本 | ファールなし |
| 5位 | 佐賀関支部 | ホームラン2本 | ファール1本 |
- チャリティー金は、福祉関係へ寄付しました。



ホームラン競争競技中

さてソフトボール本戦です。試合組み合わせとしましては、臼杵土木事務所長優勝旗争奪から、通常通り三支部で争い、優勝支部が佐伯、竹田支部の勝利者と対戦することとなりました。

対戦中のアトラクションとして、3回のみ、走塁を、3塁から回るとして行いました。各選手ともバッターボックスに立つまでは、3塁から回ることを意識していたようですが、打った瞬間にはほとんどの選手は1塁方向へ走りアウトになるケースが多々あり、爆笑と罵声が飛び交っていました。



競技状況（佐賀関支部対臼杵支部）

### 結果発表

- 三支部優勝 佐賀関支部  
 2位 津久見支部 3位 臼杵支部  
 2支部勝者は佐伯支部  
 総合優勝 佐賀関支部

番外組み合わせを、竹田支部対土木所長選抜で行いました。ここでの勝者はなんと竹田支部。土木所長選抜チーム大敗でした。

選手の皆様には暑い中大変お疲れ様でした...

さて「本番はこれから」ですよ。本番 = 懇親会ですよ。三支部でのソフトボール大会はあくまでも余興であり、その後に続く懇親会が実際の優勝旗争奪戦かも...

実は、前回津久見支部で開催した折り、佐賀関支部長が「関でやるときゃ、関アジ関サバづくしじゃー」と公表したため、青年部は冷や汗たらり。肴がいいから酒がジャンジャン出ましたよ。「予算オーバー」

ほろ酔い気分を一層盛り上げるため、アトラクションとして、氷バケツ我慢大会を各支部女性会員での勝負を皮切りに30代40代対決へと様相が変わり、おまけに支部長プラス土木所長対決へと飛躍してしまいました。賞金、賞品がかかると人間って地が出ますねー。根性すごいですよー。大盛況の中約2時間無事今大会も終わりました。

来年からの三支部+ が見物ですね。

(裏方青年部諸君、関アジ関サバが口に入らずじまいで申し訳ない。運営協力に感謝、感謝です。)



我慢大会とアジサバ刺身





お散歩  
つくり

## ～歴史ある 小さな神殿～

この神社は高速道路ICに隣接する平岩地区に存在する。道路工事がなければ市民の目に触れる事はなかったのである。400年前から村人達を支えてきた、それはそれは小さな神殿。



「菅神社 旧神殿」(写真背後は高速道路)

この神社は慶長元年頃(1595年)から奉られていた古い神社の一つ。時は、將軍足利義晴の時代、大友宗麟津久見天徳寺にて死去・慶長5年稲葉貞通臼杵藩主となった頃の時代から歴史を歩んでいる。神殿は明治32年建替られた様で103年の歴史を引き継ぎ現在に至る。神殿は3尺×3尺と小さい座布団サイズで、お稲荷様と勘違いされる規模である。境内に灰石像の牛が奉納され、当時の村民達(農家)の気持ちが伝わってくる。神殿の造りは小規模であるが、三間社流れ造りで「紅梁・げ魚・はねこう欄・わき障子・ます組」等に及ぶ細工、彫刻には驚く職人技が随所に見られる。

老朽化も見られず、このまま大事に保存して置きたい建築物である。



「左側旧神殿・右側新設拝殿と神殿」

現在は隣接して拝殿・神殿が新設されている。

建物周囲は高さ30mほどの御神木にかこまれ、北方に鳥居が2つ築造されている。話しによると、「峰続きの臼杵側に岩を奉っている立石神社があって、その鳥居は神社と関係なく尺間山を向いて建造されたらしい」この神社の鳥居位置も、やはり尺間山を向いている様に見える。

昔からの「秘伝説」があると聞いているので、奥深い神社の一つである事は間違いない。



鎮南山北方にある「立石神社」



## メキシコ旅行

私は6月にグアダハラ（メキシコ）へ行ってきました。結婚式出席というのが今回の旅のきっかけとなったのですがせっかくだからと思い、メキシコシティ、ケレタロ、サン・ミゲル・デ・アリエンデ、グアナファト、トゥーラなどにも足を延ばしてみました。出発前はメキシコという国に対して少し不安があったけど、実際は親切な人が多く、陽気でダンス上手だし、食事（タコスとカルド・トラアウルペーニョというスープが絶品）は美味しいし、あ！テキーラは私には強すぎました...



友人の結婚式、披露宴会場にて



上の写真は、サン・ミゲル・デ・アリエンデにあるゴシック建築のラ・パロキア教会です。

19世紀末に、インディオの血をひくセフェリーノ・Gが設計したもので、この教会の尖塔は町の象徴ともいわれています。

この町では、初スコールに遭い雷も鳴り大変でしたが、他の旅行者と雨宿りしながらボーッと過ごした時間も今となればいい思い出です。



上の写真は、ケレタロの水道橋です。

下の写真は、メキシコシティにあるカテドラル教会です。1567年に起工され約250年後の1813年に竣工し、ラテン・アメリカ大陸最大の宗教建築といわれ、メキシコシティで教会といえばこのカテドラルをさすそうです。

右側の建物は礼拝堂になっていて、私が訪れた時もミサの最中でした。この周辺の広場では、露店がたくさん出店しダンスや音楽のパフォーマンスなども行われていて平日とは思えない賑やかさでした。



雨のサン・ミゲル・デ・アリエンデにて



テオティワカンの「ケツアルコアトルの神殿」

太陽と情熱の国メキシコは過去と現代とが見事に調和した魅力あふれる国でした。

富松 智佐美



# 私とまちなみについて

## 私の街並みへの想い

一昨年ヨーロッパに旅行する機会がありミュンヘン・パリ・ストックホルムなどの都市を訪ねました。

各都市の共通点として市内に『旧市街』と呼ばれる一角があり、そこを『歴史的保存地区』に指定して建築規制を掛けており、同時に通りに面した壁面の景観の助成も行ってた。

以前はストックホルム市などの『旧市街』も日本と同じような中心市街地の空洞化が進んでおり、同じ悩を抱えていたが、市の助成が効果を上げて、いまではたくさんの観光客が訪れて賑わう、歴史を感じさせる街並みになったとの事であった。

もう一つの共通点は町に『電柱が無い事』『看板も統一されて綺麗』などが特に印象に残り仕事に少しでも生かしたいと思っていました。



ロ - デンブルグ (ドイツ)

## 竹田市への転勤

そんな頃、ちょうど竹田市に転勤になりました。竹田では昼休みは旧市街を散策をしたり、ある時には市から建築士会が依頼された建物調査 (ボランティア) をしたりしていました。

7月には建築士会竹田支部で街並みを研究する目的で「飛騨高山」「郡上八幡」「白川郷」のへ旅をしました。



白川郷

## まちなみ会誕生

折りしも竹田市では平成13年度から町づくりに『街並み環境整備事業』の計画をしていました。

その事業を推進するには建築士会の協力が是非とも必要」との話が竹田市より建築士会にありました。建築士会では以前から町づくりに積極的に協力してました。今回も協力する事になり、まず川野支部長、他有志6名で先進地の福岡の吉井町 (重要建造物群保存地区) を視察に行くこととなりました。

## 吉井町のまちなみ保存

吉井町の保存地区では町屋や土造が連続する街並みがあり「特色ある歴史的景観」をなしていました。

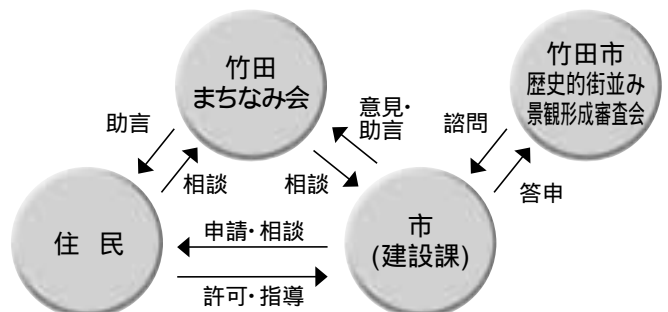
吉井町では「吉井まちなみ設計会」を事業の支援専門組織として位置付けをしていました。



福岡県吉井町

## まちなみ会誕生前夜

この手法でやれば竹田支部でも何とかできるだろうかと不安ながらも、私も含め視察に行った皆の気持ちであり、そこから『竹田まちなみ会』が始まりました。





## 豆田まちなみ調査

平成14年の年頭に日田市長が「豆田町の伝統的建造物群地区指定を目指す。」と表明したことを受けて、豆田町のまちなみ・家屋調査が実施されることとなった。

今回の調査は、日田市が九州芸術工科大学（宮本雅明教授）に依頼し、そこに建築士会の協力可能な会員が協力するという形を取っている。

6月より始まり、7月末までまでのべ10日間（1日2～4件の調査）で約30件の調査を行っている。

調査項目は、敷地、配置図、1・2階平面図、矩計図、小屋裏（墨書調査）立面痕跡調査図、平面痕跡調査図（伊藤先生）、聞き取り調査・写真撮影（宮本教授）であり、それらを手分けして調査を行っている。総数80～90件程度の調査予定と聞いているので、もう少しかかりそうである。

その後、調査図面の清書等の作業となる。日田林工の建築科の生徒も既存建物の連続立面図作成に協力するようになっている。宮本教授による考察・検討の後、報告書が出来るのは来年度（平成14年度）と聞いている。

今後の進展を見ながら続報をお伝えしたい。



## 折り紙建築教室

宇佐支部 桜田 康一

建築士会宇佐支部青年部は、地域実践活動の一環として、小中学校に於ける「総合的な学習」の趣旨を踏まえ、宇佐市立長洲小学校5年生60人を対象として、7月5日（金）に当学校教室にて折り紙建築教室を開催致しました。



実施要項については、大分支部の姫野青年部長より経験に基づいたアドバイス、企画を頂き、茶谷先生著書の折り紙建築を教材として授業プログラムを作成しました。学校側の説明、調整はPTA役員でもある私が行い協力、理解を得て実現に至りました。私達建築士会の本行事の開催趣旨は、次代を担う子供たちが「住まい」や「建築」「まちづくり」について正しく理解し興味を持ってもらい、建築文化と歴史的建築物の保存意識の向上そして、建築士の後継者の育成につながれば……という願いを目的に取り組んでいきました。

さて、当日の内容につきましてはまず、2クラス合同で建築士の役割と自己紹介の後、授業プログラムの説明を行い、それから2クラスに分かれて第1作目の共通課題の「対馬の石屋根」に全員が同時進行で取り組みましたが、私達もその製作方法や手順などの教え方にとまどい、又子供達もその手際や要領が難しい様に感じられました。建築士会と子供達、お互いが根気よく丁寧に教えていく中、次第にそのコツを掴んでいきました。



カッティングが終わり、印にそって折っていくと、建物が立体的に浮かび上がってきました。例によって彼らはあちらこちらで自分の作品を見せ合いうれしそうに自慢していました。

そんな中、あっという間に1校時目が過ぎ、2校時目はバイキング方式で10作品の中から、自分の好きな物を選択し、製作する方法で行いました。ガウディのサグラダファミリア、アメリカのホワイトハウス、新宿センタービル、etc・・・

驚いたことに2つの教室は水をうった様に静まり、皆一言もしゃべらず、夢中になって製作に取り組んでいました。これには、先生方もPTAの方々も驚いた様子でした。終了のチャイムも気にせず、なかなか止めようとせず、もっと続けてという声で教室がいっぱいになりました。最近では学校を取り巻く色々な問題が取り沙汰されている中、子供達がこんなに自らが集中して何かに取り組んでいる姿を見て、PTA役員の方や先生方から私達建築士会に対して感謝の言葉を頂きました。私達は5年生の子供達から「ありがとう」「楽しかった」の言葉を頂き、残りのケント紙を彼らにプレゼントして「また、来るよ」の言葉を交わし、折り紙建築を終了することができました。

#### 参加建築士

宇佐支部	渡辺 賢一
	佐藤 一郎
	前畑 浩治
	森田 修
	梶田 康一
中津支部	長谷川 詳
	南 宏治
大分支部	姫野英次郎

### 折り紙教室に対して建築士へのメッセージ 先生より

長洲小学校教諭 5の2担任 須藤 優子  
「スーッ、スーッ」とカッターをすべらす音、集中した真剣な顔の子供達。一枚の紙から奥行きのある建物が次々とびでてくる意外さ、面白さに、子供達も私もすっかり魅了されていました。いつもの教室とはちょっと違う快い緊張感のあつという間の2時間でした。夢中になって取り組めるすばらしい授業に子供を本気にさせることの大切さをあらためて教えられました。このような機会を与えてくださってありがとうございました。

### 生徒より

長洲小 5の2 坂田加奈恵  
最初はカッターを使ってどんな家ができるんだろうと思っていました。だけど、とてもきれいに家ができてうれしかったです。またやりたいなあと思いました。

長洲小 5の1 豊永まどか  
私は、さいしょは何をするのかわからなかったけど、やっていくうちにすごくおもしろくなって、家でも折り紙建築をしました。きてくれてありがとうございました。

長洲小 5の2 衛藤 有希  
とてもおもしろかったので、自分も建築家になりたいと思いました。





# 舌検隊 V

第4回

中津の巻

大分支部 宮崎 敏信

再開4回目となった今回は、県北ということで“中津”にお邪魔した。3年程前に中津土木事務所に勤務していたが、1年しか居なかったので、飲み屋さんはほとんど知らない。店の選定は本部編集委員で中津支部の山村氏と中津土木事務所の西胤氏にお願いし、数店の中から「扇八」を“舌検”した。

7月12日、中津土木事務所で落ち合い、西胤氏、河野さん(中津土木事務所勤務・現在1級建築士試験勉強中)と歩いて行く。まだ初夏の日が高く結構暑い。汗だくになりながら中津駅北口から銀天街を歩いて「扇八」着。駅より5分とかからない。

女将さんが超！忙しく、お代わり注文は、カウンターに座っているお客さんが気軽にして呉れる。家庭的な雰囲気が嬉しい。生ビールを2杯飲み、途中から焼酎に切り替える。「扇八」のお目当ては、“煮込み”である。寒い時期なら最高だが、夏でも美味しい。肉の筋を長時間掛け柔らかくなるまで煮込んだものだ。“にんにくが味のポイント”と女将さんが語ってくれた。各種の料理を平ら上げた後、これを食するともう1杯入る感じだ。ラストに海老の天麩羅で仕上げる。普段はここでワインに移るのだがー。



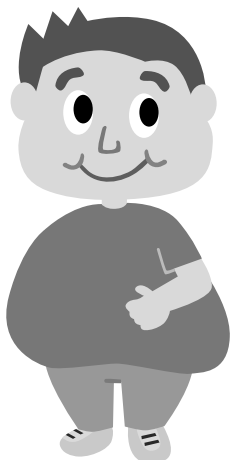
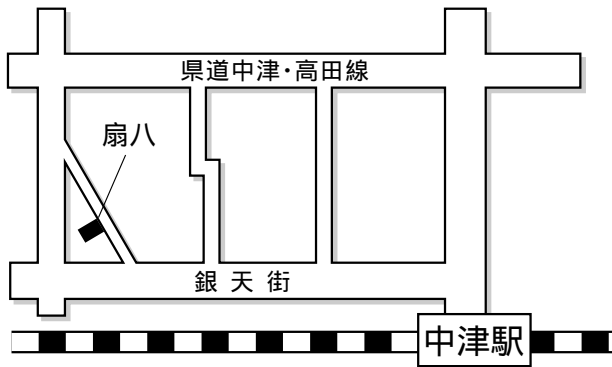
約束時間のジャスト18時着。既に満員の盛況だ。西胤氏から予約してもらっていたので一番奥のいい席？に座れた。既に山村氏も待って居てくれた。

早速、生ビールで乾杯する。暑くなったので走らなくても美味しい。カウンター、座席、座敷も満員で、女将さん一人で切り盛りしており注文も大変だ。取り敢えずおつまみの盛り合わせを取る。

蟹・海老、山菜、枝豆、等々盛沢山で結構な味でビールも奨む。中津支会の活動や高田の国東セミナーの話で盛り上がる。中津支会は会館を所有し、会報等も発行したり、レクレーション活動も活発なようだ。また、国東セミナーは多彩なゲストが講演等やっており、休止しているが素晴らしいイベントをしていたと感じる。

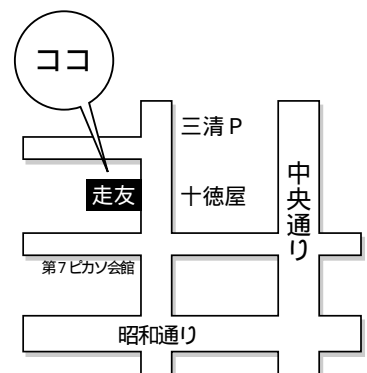


あっと言う間に2時間半が経ち、JRの時間が近づいた。もっとゆっくりしたいのだが諸般の事情で3人と別れ中津駅へ急いだ。彼らはこの後大いに盛り上がり夜中の1時まで飲んだそうである。気の合う仲間と楽しい語らいと美味しい酒を酌み交わすのは、人生最高の楽しみだと感じながら大分へ向かった。



## お知らせ

No.8の第1回で、“舌検”した『走友』が4月に都町（十徳屋前）に移転しました。



シリーズ 登録文化財 No.8

# 野上 弥生子 成城の家

名称：野上弥生子 成城の家  
所在地：白杵市大字白杵70 15  
所有者：フンドーキン醤油 株式会社  
建築年代：昭和4年(1929)  
登録：平成9年7月30日 No.44 0009号  
設計者：森 可修(もり よしなが)  
施工者：不詳  
移築設計：(株)降幡建築設計事務所(長野県)  
構造：瓦葺 木造2階建  
規模：建築面積 74㎡



昭和4年 富山県出身の銀行員 森可修が自邸として東京の成城に建てた洋風住宅。当時、銀行員の森には建築設計の素養はなかったが、森口多里の「文化的住宅の研究」をはじめ郊外の小住宅に関する文献を渉猟して自ら設計した家である。戦後、縁あって白杵出身の作家・野上弥生子が譲り受け住居兼書斎として執筆活動を続けながらその後の生涯を過ごした。

弥生子が昭和60年に99歳で逝去した後、平成2年現在の場所に移築。スペイン風の瓦で葺いた急勾配の屋根やモルタル仕上げの外壁などを持つ洋風の外観は大正から昭和初期の人々があこがれた東京郊外における洋風小住宅の特徴を欠くことなくすべて身に付けており建築探偵の藤森照信氏に“まるで絵に描いたような洋風小住宅”と言わしめた。特に少女のスカートの裾を広げたような形の屋根のカーブとロトングと呼ばれる半円形状のサンルームはその外観を特徴づけている。

現在は地元で弥生子所縁の醸造会社の所有となっており、毎週日曜日には10:00~16:00迄の間、内部の応接室や書斎などを見学できるよう一般に公開されている。

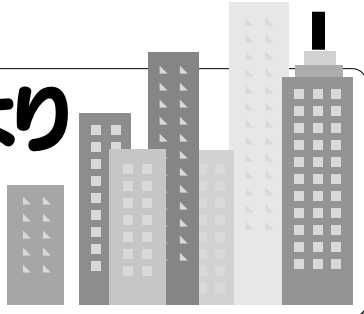
## 野上 弥生子

明治18年(1885)白杵で酒造業を営む小手川家の長女として生まれる。本名ヤエ。明治33年(1900)14歳で上京、明治女学校卒業後同郷出身の野上豊一郎と結婚。英文学者で能楽研究家の夫の紹介で夏目漱石の門下生となり明治40年頃から“ホトトギス派”の流れを汲み精力的に作品を発表。また、歴史や思想問題にも取り組み多くの作品を発表し、息の長い作家生活を送る。日本芸術院会員、文化勲章受賞。代表作「海神丸」「真知子」「迷路」「秀吉と利休」など、昭和60年(1985)逝去。



# 行政だより

大分県建築住宅課



## 建築基準法等の一部を改正する法律について

「建築基準法等の一部を改正する法律」が平成14年7月12日公布され、一部の規定を除き、公布の日から起算して6ヶ月以内で施行されます。あわせて「高齢者、身体障害者等が円滑に利用できる特定建築物の建築の促進に関する法律」及び「エネルギー使用の合理化に関する法律」についても本年度改正が行われていますので、その主な内容についてお知らせします。

## 建築基準法関係

1. 用途地域における容積率等の選択肢の拡充  
地域ごとのまちづくりの多様な課題に適切に対応できるようにするため、容積率制限、建ぺい率制限等の選択肢の拡充を行う。
2. 容積率制限等を迅速に緩和する制度の導入
  - (1) 総合設計制度における審査基準を定型化し、許可の手続きを経ずに、容積率制限及び斜線制限を迅速に緩和できる制度を導入する。  
一定の住宅系建築物（用途地域、敷地規模及び空地率の条件に適合するもの）について、指定容積率の1.5倍以下で、容積率制限を緩和する。斜線制限と同過程の採光等を確保する建築物（一般的な斜線制限と比較して天空率が低下しないもの）については、斜線制限を適用しない。
  - (2) 総合設計制度と一団地認定制度の手続きを一本化し、手続きの円滑・迅速化を図る。
3. 地区計画制度の見直し  
現行の地区計画制度を整理・合理化し、1つの地区計画で、地区の特性に応じて用途制限、容積率制限等を緩和・強化できる制度とする。
4. シックハウス対策のための規制の導入  
(この規定のみ公布の日から起算して1年以内に施行)  
シックハウス対策のため、居室について、以下の規制を導入する。
  - (1) クロルピリホスを発散する恐れのある建築材料

の使用を禁止する。

- (2) ホルムアルデヒドを発散する恐れのある建築材料の使用制限を行うとともに、気密性の低い在来木造住宅を除き、換気設備の設置を義務付ける。

## 高齢者、身体障害者等が円滑に利用できる特定建築物の建築の促進に関する法律関係

(平成14年7月12日公布、公布の日から起算して1年以内に施行)

1. 特定建築物の範囲の拡大  
特定建築物の範囲を、不特定でなくとも多数の者が利用する学校、事務所、共同住宅等の用途の建築物にも拡大する。
2. 特別特定建築物の建築等についての利用円滑化基準への適合義務の創設  
特別特定建築物（現行の特定建築物及び老人ホーム等）の一定規模（2千㎡を想定）以上の建築等を行う者は、利用円滑化基準（現行の基礎的基準）に適合させなければならないものとする。  
上記の規定を建築基準法第6条第1項に規定する建築基準関係規定とし、違反した建築等を行う者に対し是正命令等の規定を設ける。
3. 認定建築物に対する支援措置の拡大  
利用円滑化誘導基準（現行の誘導的基準）に適合し、認定を受けた特定建築物の容積率の算定においては、廊下、階段等の特定施設の床面積のうち、通常の建築物の特定施設の床面積のうち、通常の建築物の特定施設の床面積を超えることとなる一定の床面積は、算入しないものとする。  
認定建築物等に、当該認定建築物が計画の認定を受けている旨の表示をすることができることとし、何人もこれと紛らわしい表示をしてはならないものとする。

## エネルギー使用の合理化に関する法律関係

(平成14年6月7日公布、公布の日から起算して1年以内に施行)

1. 特定建築物の新築・増改築時の省エネルギー措置の届出の義務付けの創設  
特定建築物（2千㎡以上の住宅以外の建築物）の建築主は、当該特定建築物の省エネルギー措置（建築物の外壁、窓等を通しての熱の損失の防止及び空気調和設備等に係るエネルギーの効率的利用のための措置）に関するもの（省エネルギー計画書）を特定行政庁に届け出なければならないものとする。

## 住宅金融公庫の改革の方向

～平成13年12月19日の閣議決定より～

平成13年12月19日に「特殊法人等整理合理化計画」が閣議決定されました。住宅金融公庫の事業及び組織形態については、次のような内容となっております。

### <事業について講ずべき措置>

#### 【住宅資金融通事業等(融資、保険)】

融資業務については、平成14年度から段階的に縮小するとともに、利子補給を前提としないことを原則とする。

融資業務については、民間金融機関が円滑に業務を行っているかどうかを勘案して、下記の独立行政法人設置の際、最終決定する。なお、公庫の既往の債権については、当該独立行政法人に引き継ぐ。

貸付資産等のリスク管理及び引当金の開示については、適切に実施する。

金利の決定については、政策的必要性等を踏まえ、決定責任主体を明確にする。

政策金融について評価手法を検討し、その結果を事業に反映させる仕組みを検討する。特に繰上償還を含めた政策コストを明示する。

### <組織形態について講ずべき措置>

5年以内に廃止する。また、住宅金融公庫が先行して行うこととしている証券化支援業務については、これを行う新たな独立行政法人を設置する。

(注) 下線部は本資料作成にあたって追加

特に実際の業務に関連する内容(アンダーライン部分)をお客様からのご質問に答える形式で、ご説明いたします。

### Q. もう融資は受けられないのですか?

大丈夫です。ご安心ください。公庫は新たな公的な機関(住宅ローンを引き継ぐ独立行政法人)に生まれ変わります。新たな機関が新規のご融資を行うかどうかは、その設立の際、民間金融機関が公庫のように長期・固定ローンを職業によらず幅広く安定的に提供しているかどうかを勘案して決められます。民間住宅ローンの状況を見極めながら、国民の皆様のご期待に応えられるよう適切な対応がなされます。

### Q. 今、返済している公庫のローンはどうなってしまうのですか?

ご安心ください。現在ご返済中の方も、これからお借り入れいただく方も新たに設立される公的な機関へ引き継がれます。引き継ぎの際、お客様にご負担はかけませんし、金利などの返済条件も一切変わりません。また、万一ご返済が苦しくなったときの返済条件変更(返済期間の延長、一定期間の元金据置き)などのご相談も親身にお受けします。

### 住宅金融公庫からのお知らせ

#### はじめませんか

## つみたてくん

#### 安全・有利な資金づくり

1年複利・安全運用で有利な資金づくりができます。

**10年債の年平均利回りは1.531%**

(平成14年度第1回募集分の例)

#### 「つみたてくん」の特徴

「つみたてくん」とは、住宅金融公庫が発行する住宅地債券(住宅コース)の愛称です。

元本保全

・払い込んでいただいた金額及び利息相当分については、公庫法により公庫の資産から優先的に弁済を受けられる権利がありますので、確実に保全されます。

1年経てば中途換金もできます

・購入された債券は、公庫が元本に利息相当額を含めて買入(換金)します。万一、公庫融資を利用しない場合においても、利息を付けてお返しします。

つみたてくんの募集時期

年2回の募集 第2回目は10月・11月頃(予定)

募集の時期が決まりましたら、公庫のホームページや新聞の広告等でご案内いたします。

つみたてくんの選べる3コース

積立コース	60万円コース	40万円コース	20万円コース
積立方法	半年ごとの積立て(2月・8月)		
積立期間	3年以上最長5年(7回～11回)		

債券の年平均利回りの例

発行から経過年数	1年後	2年後	9年後	10年後
年平均利回り	0.037%	0.174%	1.373%	1.531%
60万円コース	607,320	609,420	684,110	700,000

まずは、資料をご請求ください!!(無料)

詳しいお問い合わせ・資料請求は

住宅金融公庫南九州支店 住情報相談担当

TEL 096-387-2000 FAX 096-387-3713

# 平成14年度 通常総会報告

5月23日(木)10時30分より、コンパルホールにおいて平成14年度通常総会が開催され、平成13年度事業報告・収支決算報告、平成14年度事業計画・収支予算が満場一致で可決されましたので、以下のとおりご報告いたします。

1. 平成13年度事業報告書(略)

2. 平成13年度収支決算書  
収支決算書

自:平成13年4月1日 至:平成14年3月31日

(1) 収入の部(単位;円)

勘定科目	予算額	決算額
会費収入	22,696,260	20,213,200
事業収入	3,230,000	6,505,118
補助金交付金収入	940,000	840,000
雑収入	7,050,000	7,389,653
繰越金	10,104,067	10,104,067
収入合計(A)	44,020,327	45,052,038

(2) 支出の部(単位;円)

勘定科目	予算額	決算額
管理費	15,670,000	15,038,943
事業費	23,278,500	22,752,534
予備費	5,071,827	508,451
支出合計(B)	44,020,327	38,299,928
次期繰越収支差額(A-B)		6,752,110

貸借対照表(略)

財産目録 平成14年3月31日現在

(1) 資産の部

1. 流動資産		64,582,946	
普通預金	大分銀行	38,163,914	
現金		12,366	
定期預金	中央三井信託銀行	10,000,000	
定期預金	みらい信用金庫	8,406,666	
定期預金	豊和銀行	8,000,000	
2. 固定資産		600,000	
敷金	田原ビル	600,000	
資産合計(C)		65,182,946	

(2) 負債の部

流動負債		410,933
1. 預り金(敷金・所得税)	195,693	
2. 未払金	115,240	
3. 災害引当金	100,000	
固定負債		
負債合計(D)		0
負債合計(D)		410,933
正味財産合計(C-D)		64,772,013

剰余金処分

本年度剰余金 6,752,110円

これを次のように処分する。

会館建設基金 71,834円

次年度繰越剰余金 6,680,276円

以上のとおりである。

平成14年5月23日

社団法人 大分建築士会  
会長 岩瀬 八洲夫

3. 監査報告書

平成13年度決算書(収支計算書・貸借対照表・財産目録)及び会計諸帳簿、関係書類等の監査を実施致しましたが、正確かつ適正であることを認めます。

平成14年4月24日

監事 戸高誠一郎  
監事 田金 孝昭  
監事 佐藤 周太

4. 平成14年度事業計画書

[1] 会員の指導、連絡、組織の強化

(1) 建築士会会員の増強及び組織の強化推進

(2) 「建築士大分」の発行

(3) 建築士会連合会発行の「建築士」の配布

(4) 建築関係図書の紹介、斡旋並びに頒布

(5) 建築士会全国大会出席

・10月17日(木)~18日(金)

全国建築士研究集会、全国大会

於:三重県伊勢市

(6) まちづくりに関する事業等

・まちづくり推進協議会の活動

- (7) 青年・女性建築士活動の推進
- ・ブロック青年建築士協議会出席
  - ・全国女性建築士連絡協議会出席
  - ・6月22日(土)「建築士の集い」福岡大会の実施
  - ・平成15年2月15日(土)「パッションin大分」の実施 於：別府ビーコンプラザ
  - ・サマーセミナーの実施  
10月5日(土)～6日(日) 於：佐伯市
- (8) 創立50周年記念式典の開催  
5月23日(木)  
於：大分市 コンパルホール

- [ 2 ] 諸会議の開催、出席
- (1) 総会、役員会、各委員会の開催
  - (2) 支部長・理事合同協議会の開催
  - (3) 常設委員会、特別委員会の開催
  - (4) 青年部総会、役員会、女性部会の開催
  - (5) 連合会会議、ブロック会会議出席
  - (6) 本・支部職員研修会の開催

- [ 3 ] 建築士の教育
- (1) 国土交通大臣・大分県知事指定「建築士のための指定講習会」の実施
    - ・講習会受講の徹底推進
  - (2) 国土交通大臣・大分県知事指定特別講習会の実施
  - (3) 研修会、建築士研究集会の開催
  - (4) 建築見学会の実施
  - (5) 連合会、ブロック会主催の講習会・研修会出席

- [ 4 ] 建築行政及び関係団体への協力
- (1) 違反建築防止週間への協力
  - (2) 建築防災週間への協力
  - (3) 大分県建築物総合防災対策推進協議会への協力
  - (4) 大分県木造住宅等推進協議会への協力

- [ 5 ] 受託事業
- (1) 一級、二級・木造建築士試験実施業務
    - ・受験申込書の受理及び審査
  - (2) インテリアプランナー受験申込書の頒布等

- [ 6 ] 福利厚生事業
- (1) 第25回ソフトボール大分県大会の実施  
5月11日(土) 大分市  
県立大分工業高等学校グラウンド
  - (2) グループ保険、共済補償制度の普及、加入推進

- [ 7 ] 表彰
- (1) 建築士会への功績者表彰及び感謝状の贈呈
  - (2) 国及び地方公共団体の表彰該当者の推薦

- [ 8 ] 平成14年度収支予算書  
自：平成14年4月1日  
至：平成15年3月31日

(1) 収入の部

勘定科目	前年度決算額	本年度予算額
会 費 収 入	20,213,200	22,108,000
事 業 収 入	6,505,118	2,748,250
補助金交付金収入	840,000	2,070,000
雑 収 入	7,389,653	6,876,000
繰 越 金	10,104,067	6,680,276
収 入 合 計	45,052,038	40,482,526

(2) 支出の部

勘定科目	前年度決算額	本年度予算額
管 理 費	15,038,943	15,220,000
事 業 費	22,752,534	21,171,800
予 備 費	508,451	4,090,726
支 出 合 計 ( B )	38,299,928	40,482,526





## 事務局だより

### 【会議報告】

#### 建築士会創立50周年記念事業（記念式典係）

##### 実行委員会

日時 平成14年4月4日

場所 事務局

出席 9名

概要 創立50周年記念式典の実施について

##### 三役会議

日時 平成14年4月9日

場所 コンパルホール

出席 8名

概要 理事会の議題について  
士会創立50周年記念式典について

#### 建築士会創立50周年記念事業

##### （記念誌発行・記録係）実行委員会

日時 平成14年4月11日

場所 コンパルホール

出席 12名

概要 記念誌の発行について

#### 平成13年度会計監査

日時 平成14年4月24日

場所 事務局

出席 監事3名 役員6名 事務局2名

概要 会計監査

#### 青年部会長・副部会長会議

日時 平成14年4月27日

場所 コンパルホール

出席 16名

概要 「CPD+専攻建築士+総合的学習の時間」  
について各支部より報告  
「地域実践活動報告」（県内選抜選考会）

#### 第1回理事会

日時 平成14年5月8日

場所 コンパルホール

出席 32名

概要 平成13年度事業報告及び収支決算報告  
について  
平成14年度事業計画（案）及び  
収支予算（案）

#### 平成14年度通常総会

日時 平成14年5月23日

場所 コンパルホール

出席 126名 委任426名

概要 平成13年度事業報告及び収支決算報告  
の承認について  
会計監査報告  
平成14年度事業計画（案）及び  
収支予算（案）の決定について

#### 青年部総会

日時 平成14年5月23日

場所 コンパルホール

出席 16名

概要 平成13年度事業報告及び収支決算の  
承認について  
平成14年度事業計画（案）及び  
収支予算（案）の決定について

#### 女性部会 定例会

日時 平成14年6月1日

場所 臼杵市

出席 15名

概要 全国女性建築士連絡協議会について  
平成14年度 年間行事計画

#### 青年部会長・副部会長会議

日時 平成14年6月8日

場所 コンパルホール

出席 18名

概要 「地域実践活動」内容確認について  
「パッションinおおいた」について

#### 本部・大分支部合同三役会

日時 平成14年6月14日

場所 コンパルホール

出席 10名

概要 住宅フェア  
「環境と住まいフェスタinおおいた」  
開催について  
平成14年・15連合会 制度委員の  
選出について

#### 建築士会創立50周年記念誌編集会議

日時 平成14年7月3日

場所 コンパルホール

出席 14名

概要 記念誌「建築士おおいた」合併号の  
編集方針について

#### まちづくり推進協議会

日時 平成14年7月12日

場所 事務局

出席 6名

概要 まちづくり活動助成について



女性部・大支部青年部共催講演会打ち合わせ

日 時 平成14年7月15日  
場 所 事務局  
出 席 4名  
概 要 講師の先生を招いて打ち合わせ

三役会議

日 時 平成14年7月16日  
場 所 事務局  
出 席 8名  
概 要 住宅フェア  
「環境と住まいフェスタinおおいた」  
開催について  
「継続的能力開発制度」の対応について

編集会議

日 時 平成14年7月17日  
場 所 コンパルホール  
出 席 14名  
概 要 士会創立50周年記念誌（建築士おおいた）  
合併号の編集について

【建築士会連合会関係】

都道府県建築士会職員会議

日 時 平成14年3月19日  
場 所 東京都  
出 席 御手洗事務局長・手島

平成14年建築士試験業務連絡会議

日 時 平成14年3月20日  
場 所 東京都  
出 席 御手洗事務局長・手島

第411回定例理事会・各士会長合同会議

日 時 平成14年5月28日  
場 所 東京都  
出 席 岩瀬会長

本会「教育・事業委員会」と各ブロック意見交換会

日 時 平成14年6月18日  
場 所 福岡市  
出席者 3名

会誌「建築士」2002年9月号特集

座談会「次世代を担う建築士」  
日 時 平成14年6月19日  
場 所 東京都  
出席者 牧野貴士氏

全国女性建築士連絡協議会

日 時 平成14年7月12日、13日  
場 所 東京都  
出 席 9名

【九州ブロック関係】

青年建築士協議会臨時会

日 時 平成14年4月13日  
場 所 北九州市  
出 席 今永青年部会長・渡辺青年副部会長

会長・常務理事合同会議

日 時 平成14年6月7日  
場 所 佐賀市  
出 席 岩瀬会長・宮崎常務理事

第1回青年建築士協議会

日 時 平成14年6月22日  
場 所 北九州市  
出 席 今永青年部会長・渡辺青年副部会長

「建築士の集い」鹿児島大会

日 時 平成14年6月22日  
場 所 北九州市  
出 席 65名

事務局長会議

日 時 平成14年7月19日  
場 所 長崎市  
出 席 御手洗事務局長

【建築士試験業務関係】

建築士試験業務第1回連絡会議

日 時 平成14年6月12日  
場 所 福岡市  
出 席 岩瀬会長・御手洗事務局長

【その他の会議】

ぶんご建築連絡協議会 平成14年度第1回会議

日 時 平成14年4月15日  
場 所 大分県建築住宅センター  
出席者 芳山副会長 他2名

環境と住まいフェスタinおおいた（仮称）

実行委員会設立総会  
日 時 平成14年4月30日  
場 所 大分県木材協同組合連合会  
出席者 岩瀬会長 他2名

大分県木造住宅等推進協議会通常総会

日 時 平成14年6月10日  
場 所 大分県共同庁舎  
出席者 岩瀬会長

住宅フェア個別意見交換会  
 日 時 平成14年6月10日  
 場 所 大分県建築住宅センター  
 出席者 芳山副会長 他2名

住宅フェア個別意見交換会  
 日 時 平成14年7月2日  
 場 所 大分県建築住宅センター  
 出席者 石井大分支部長、御手洗事務局長

大分県建築物総合防災推進協議会理事会  
 日 時 平成14年6月14日  
 場 所 大分県共同庁舎  
 出席者 御手洗事務局長

「木と暮らしのフェア2002(仮称)」  
 第1回事務局会議  
 日 時 平成14年7月30日  
 場 所 大分県共同庁舎  
 出席者 朝久野氏

「環境と住まいフェスタinおおいた」  
 第1回実行委員会  
 日 時 平成14年6月19日  
 場 所 大分県木材協同組合連合会  
 出席者 御手洗事務局長

「木と暮らしのフェア実行委員会(仮称)」  
 第1回幹事会  
 日 時 平成14年8月6日  
 場 所 大分県林業会館  
 出席者 今永青年部長

大分県建築物総合防災推進協議会 総会  
 日 時 平成14年6月21日  
 場 所 大手町会館  
 出席者 御手洗事務局長

「環境と住まいフェスタinおおいた」  
 第2回実行委員会  
 日 時 平成14年8月9日  
 場 所 大分県木材協同組合連合会  
 出席者 岩瀬会長 他2名

大分県林業青年会議所通常総会  
 日 時 平成14年6月21日  
 場 所 大分県林業会館  
 出席者 首藤常務理事

「木と暮らしのフェスタ実行委員会(仮称)」  
 第1回実行委員会  
 日 時 平成14年8月8日  
 場 所 大分県林業会館 出席者 岩瀬会長

## 新 会 員 紹 介 (H.14年4月入会から8月入会)

支部	氏名	生年	級別	登録番号	〒	住 所	電 話	勤務先(☎)
国 東	菊本 賢治	S44	1	305066	874 - 0936	別府市亀川中央町3 - 40コーポ豊島105	(0977)67-8639	菊本建設(株) (0978)67-0054
別 府	小山 秀輝	S51	準		874 - 0833	別府市鶴見8組 - 2 アムールヒル101	(090)2587-2441	別府市役所 (0977)21-1111
"	北村 卓三	S44	準		874 - 0031	別府市照波園町1 - 16	(0977)67-2212	(株)北村建設 (0977)22-7718
大 分	橋本 大介	S50	2	6991	870 - 1102	大分市敷戸新町5 - 3 - 304	(097)569-8180	(株)新日垂設計 (097)558-6567
"	芳山 智奈	S51	準		870 - 0023	大分市長浜町1 - 3 - 24第3サツキマンション302	(090)4655-0806	(株)大分住宅研究室 (097)532-1885
"	橋上 勝士	S44	2	6284	870 - 0126	大分市大字横尾3521 - 6コスモシティ横尾510		(有)エッチエム企画 (097)554-2250
"	荒金 淳	S29	1	153644	879 - 1507	速見郡日出町大字豊岡6100 - 123	(0977)72-8812	新成建設(株) (097)545-7878
"	中尾 光治	S48	準		870 - 0933	大分市花津留1 - 4 - 26光栄ビル206	(090)8624-5866	(株)EE設計 (097)551-6851
"	森竹 功象	S50	準		870 - 0942	大分市大字羽田1042 - 1プレミール1 番館205	(090)5388-1735	(株)EE設計 (097)551-6851
"	浅井 康行	S25	1	121042	870 - 0936	大分市岩田町1 - 11 - 11	(097)552-4341	(有)技奈浅井康行建築工房 (097)552-6633
佐賀関	後藤 聖和	S54	2	7057	870 - 0106	大分市下鶴崎2369 - 2しらさぎアパート2号室	(097)521-2017	(株)セキ土建 (097)575-1120
白 杵	宇野 貴典	S49	2	6951	875 - 0023	白杵市江無田11 - 1	(0972)63-3371	大分土木事務所 (097)558-2141
津久見	大村 正壽	S26	2	6950	879 - 2442	津久見市港町10 - 35	(0972)82-8688	(有)大村家具・大村仏壇店 (0972)82-4062
佐 伯	藤田 康弘	S39	2	6726	876 - 0813	佐伯市長島町1 - 32 - 7	(0972)23-4658	(有)御手洗設計 (0972)23-4880
"	山崎 邦規	S54	2	6968	876 - 2402	南海部郡蒲江町大字猪串746 - 1	(0972)42-1463	谷川建設工業(株) (0972)22-2601
"	戸高 志朗	S46	2	宮崎県 7133	876 - 2401	南海部郡蒲江町大字蒲江浦4798	(0972)42-0572	戸高建築 (0972)42-0572
中 津	工藤 健治	S54	2	6986	871 - 0093	中津市浦町175浦町コーポ1号	(090)1872-8528	中津木工(株) (0979)22-4161
"	山里 直也	S51	準		871 - 0058	中津市豊田町1 - 14 - 25ひまわり21 - 903号	(090)4774-3154	伊藤忠エネクス(株) (0979)23-5000
"	岩男 正光	S28	1	189461	871 - 0021	中津市大字上池永652	(0979)24-3182	二豊土建(株) (0979)22-3391
"	金崎八ツネ	S12	準		871 - 0025	中津市大字万田144	(0979)22-6727	(有)日豊建設 (0979)22-6727
"	河野 佑美	S52	準		871 - 0024	中津市中央町1 - 4 - 24		中津土木事務所 (0979)22-2110

# まちづくり活動助

## 中津支部

中津支部青年部の「島田本町区画整理事業の伴う街並み提案」活動では、前回の中間報告から半年余りしか経過していないので大きな活動はありませんが、「まちづくり活動助成事業結果報告」としてその後の活動内容をご報告します。

この半年間は主に今までの活動のまとめ作業の期間でした。昨年10月の第1回地元住民との懇話会での生の声を元に、それまでの資料の整理やこれからの方向性をさぐるべく、私たちは毎週水曜日に集まり地道に活動していました。

ある時、メンバーの一人からその通りに新しい店舗ビルが建つという情報を得て、早速調べてみることにしました。私たちは建て主を探して自宅に訪問し、街並み景観の大切さを切々と訴えました。その時はお互い気持ちが通じたかに思いましたが、数ヵ月後残念ながらそのビルは景観を考慮したとは思えない形で完成していました。もう少し深く接していれば・・・と悔やまれますが、後の祭りです。後から建てようとする人がこの店舗ビルを参考にしないよう願ってやみません。私たちは、今回の件で「戸別訪問」の大切さをつくづく感じると共に、景観条例や協定についての勉強や調査も必要だと感じました。



また、地元住民との2度目の懇話会を今年の2月に開きました。今回、大きな話の進展はありませんでしたが、住民との意思の疎通や不安解消の点からも、これからも定期的に懇話会を行っていくことは大事なことでと思いました。

1月のパッション宮崎大会の翌日、街づくり先進地である日南市飫肥の街並みを視察しました。期待が大きすぎたせいもありますが、皆一様に“街並みはきれ

いだが、人がいない、活気がない”と漏らしていました。(日南支部さん、ごめんなさい)しかし、これは中津でも言えることで、“いくら通りが整備されてもそこに住んでいる人の気持ちが前向きでないと、街並みは生きてこない”このことは大きな教訓になりました。



今回、私たちの地道な活動が建築士会より多大な評価を頂き、研究集会福岡大会に栄えある大分県代表として活動報告発表をすることになり、6月22日、北九州で発表してきました。私たちのメンバーにとっては初めてのことで、とても貴重な経験のチャンスを与えていただいたことに深く感謝しております。その内容は、別記事で紹介させていただきます。



島田本町の街並み作りは、まだ種をまいている段階です。これが少しずつ育ち、きれいな花を咲かせるまでかなりの年月がかかります。私たちは水をまきつづけ、この通りが花を咲かせるまで末永く見守って生きたいと思います。

最後に、今回の「まちづくり助成金」を交付していただき、それまで頭を悩ませていた経費を気にせず、思う存分活動が出来たことに深く感謝しております。ありがとうございました。

中津支部青年部長 長谷川 詳

# 成事業完了報告

玖珠支部

豊後森機関庫保存運動と森地区街なみづくりで

## 完 結 編

### 《豊後森機関庫保存運動》

現在までの保存運動を振り返りますと、2万2千の署名と共に陳情書を提出して玖珠町長より豊後森機関庫の保存を含めた豊後森駅周辺の開発計画に対して前向きに検討していただくご回答を頂きました。また玖珠町議会におきましても、機関庫の保存について議題に上がり、議会としても取り組んでいただくことになりました。

その後、私たちも署名活動・陳情書の提出だけで終わらせてはいけないと、常に豊後森機関庫の存在を忘れられないよう活動することにしました。

4月には大分大学工学部の学生さん達が豊後森機関庫を生かしたその周辺の将来計画を研究課題にとりあげていただき、玖珠町役場で作品の展示、発表会を開催しました。5月5日の玖珠町で行われる日本童話祭では玖珠ライオンズクラブ主催の機関庫スケッチ大会を開催し、豊後森駅に作品を展示しました。予想を上回る小中学生の参加があり、参加した子供達はそれぞれにここは残してほしいという意見がほとんどでした。6月からは実際の保存に向けての活動として、月2回の例会を定期的に行うことにしました。この会議には玖珠町長より提言があり、玖珠町役場の担当者も一緒に参加して、活動を進めていくことが決まり、現在会議を重ねております。

また玖珠町役場より童話の里生き生き活動助成金という町づくりへの支援として、200万円の助成金を補助していただくことになりました。この助成金を活用

しまして、私達は今年の11月16日（豊後森機関庫の誕生日にあたる日）に玖珠町メルサンホールにおきまして保存に向けてのシンポジウムを開催することにしております。シンポジウムには多くの人にお集まりいただいて、保存についての提言、周辺整備等に関して構想を発表していただこうと思っております。その時、語り部として常田富士男さんをお願いして、ご出席の皆さんが機関庫に対して、更に興味をいただけるようなイベントの企画をしております。

更に建物の重要性をもっと多くの人にPRする為に、機関庫の保存に向けた、機関庫の重要性を理解していただく為にビデオテープの作製を計画しております。そのテープは小中学校をはじめとして多方面へ配布し、未来の子供達へ夢と感動を与え続けることができるものになればと考えております。11月16日には皆様方にもぜひ時間をあけてご参加いただきますよう、今からお願い致します。

去る7月18日には玖珠町長と私達でJRの大分支社長を訪問して、ご挨拶と今後についての話し合いをさせていただき、前進的な内容の話ができたと思っております。今後地元では早期に豊後森機関庫保存を含めて周辺町づくり会議を結成し、関係者・有識者・機関庫に夢をもっている人達に集まってもらい構想を練っていただき、機関庫が玖珠町・大分県から日本に代表できる建造物の一つとして残せるような方向に展開していきたいと思っております。

一連の運動を通じて感じた事は、最初は少人数でスタートした運動もそれが大きな渦となり、今では全国の方から応援されています。これから地域住民を含めた真の町づくりが始まります。

玖珠支部 尾方 秀則



## 森地区街なみづくり

旧森地区は、明治の初期に大火に見舞われたが、その昔は森藩の城下町として栄えた町で久留島陣屋跡を中心に三島公園や神社、仏閣等の歴史的な遺構が多数集積する地域である。

昨年より国の街なみ環境整備事業の実施が決まり、役場企画課から建築士会への支援依頼もあり、士会として協議会への3名の会員をアドバイザーとして送り込み、多数の人員が必要な場合は支部会員全員で取り組んできました。現在まで街なみ散策や、先進地の視察、街なみ調査など行いました。

役場企画課から建築士会へ「街なみガイドライン」製作の要請があり、会員で研修会を行い意志統一をした後、各班に分かれ作業をして班長で数回集まりまとめあげました。地元協議会はその資料をもとに協定書を持参して、各戸を回り現在街づくり協定が終わりました。役場から県、国に報告を行い、いよいよ事業に入る訳ですが、「街なみガイドライン」をもとに申請があがった物件について、審議を行い施工していく事になります。地元建築士会員の役割はこれからが重要になってきます。

豊後森機関庫保存、森地区街並づくりへの建築士会が関わった事は士会としても、又、個人としても有意義でありました。

しかし、これで終わりではなくやっと今始まったところです。

町づくりは、私たちの貴重な時間の奉仕から始まると思います!!



7月20日、町民各位団体による、機関庫清掃作業



森街並づくり、ガイドラインのまとめをする会員

## 佐賀関支部

当支部は、町長からの要請により文化体育総合施設建設計画のアイデア策定の委嘱を受けました。

支部内で10名のプロジェクトチームを編成し、町の企画調査課及び社会教育課と協議しながら計画立案を進めました。施設計画を作成するに当り、現在の町公民館活動の実態と町民へのアンケート調査を行いました。このアンケートを集計し、町民のニーズを把握した上で県内の類似施設を  
ヶ所選定し、視察研究を開催しました。

町民に親しまれる明るい文化施設を目的とし、全体計画から詳細計画に至るまで協議検討しました。建設予定地は田尻埋立地（約15,300㎡）施設は、RC造2階建（延べ面積約2,850㎡）多目的ホールのほか、図書室、調理室、和室、視聴覚室、研修室等を備えた平面計画をまとめ、事業費、パースを含めて報告書を町長に提出しました。町としては、実施設計から工事の発注と事業を進めていくとのこと。当支部で策定した計画が町の一助となれば幸いです。



竹田のまちなみ

去年「編集」の系図には  
台風にL.L. 今年も同じかな？  
おっちゃん様でした。  
Y.M.

台風はどいつか  
今夜影筆あるか？  
みなさん  
おっちゃん様は元気か？  
T.R.

みなさん  
ごくろうさま！ Y.T

第20回「ふゆと振興会」  
10月開催です。こせや一  
津の見支那 (おま)



台風はどいつか

ほんとは手伝うのか  
スミマセン。S

次は記事とT.R.  
同意するゾ  
T & I

次回とや2枚の2022年  
Y.M.

広報委員会

担当副会長	竹田	松井	基泰
担当常務理事	大分	宮崎	敏信
委員長	大分	宮崎	隆博
副委員長	竹田	川野	和男
委員	別府	原	精一郎
"	大分	牛嶋	義文
"	臼杵	笠木	忠昭
"	佐伯	風戸	彰
"	三重	岡部	達巳
"	中津	是本	正昭

事務局長	本部	御手洗	頼明
職員	本部	手島	涼子
職員	本部	川村	彩希江

編集委員

編集長	臼杵	笠木	木忠	昭
副編集長	国東	寺川	義昭	昭
"	竹田	野村	忠	忠
編集委員	高田	成重	憲一	治
"	別府	塩出	清幸	治
"	大分	中園	安典	行
"	大分	佐藤	敬之	子
"	大分	坪倉	尚子	子
"	大分	飯藤	幸雅	浩
"	大分	久野	雅志	子
"	佐賀	佐々木	仁悦	子
"	臼杵	佐々木	悦一	明
"	臼杵	久野	一	仁
"	津見	濱野	稔	仁
"	佐伯	小川	秀	二
"	三重	後藤	喜美	男
"	三重	川崎	淳	一
"	玖珠	後藤	増	治
"	日田	武内	村	康
"	中津	山	田	
"	宇佐	椋	田	

建築士大分

2022.9 No.85

(非売品)

平成14年8月26日 印刷

平成14年9月1日 発行

編集/発行所  
社団法人

大分県建築士会  
〒870-0022  
大分市大手町2丁目2-7田原ビル2F  
TEL 097-532-6607  
FAX 097-532-6635

 **社団法人 大分県建築士会**

〒870-0022 大分市大手町2丁目2-7田原ビル2F  
TEL 097-532-6607 FAX 097-532-6635

